

—報告書—

離島における観光振興策に関わる  
調査業務

(株)マインドシェア

平成27年3月

< 目次 >

|                        |      |
|------------------------|------|
| 第1章 調査の概要              | P 3  |
| 1. 調査の目的               | P 3  |
| 2. 対象地域の選定             | P 4  |
| 3. 調査の内容               | P 4  |
| 4. 業務フロー               | P 5  |
| 第2章 他の離島観光における振興策事例の収集 | P 6  |
| 1. 調査対象地域の選定           | P 6  |
| 2. 調査報告                | P 6  |
| (1) 小値賀                | P 6  |
| (2) 対馬                 | P 12 |
| (3) 黒島                 | P 18 |
| (4) 甑島                 | P 22 |
| (5) 屋久島                | P 29 |
| (6) その他の離島             | P 34 |
| 3. 調査まとめ               | P 37 |
| 第3章 奄美への交通アクセスの現状調査    | P 38 |
| 1. 調査報告                | P 38 |
| 2. まとめ                 | P 45 |
| 第4章 奄美大島における観光振興策      | P 46 |
| 1. 現状把握                | P 46 |
| 2. 課題の整理               | P 53 |
| 3. 観光振興策の検討            | P 54 |
| 第5章 収集した観光振興策の発表       | P 55 |
| 1. シンポジウムの開催           | P 55 |
| 2. 各プログラム内容            | P 58 |
| 3. アンケート結果             | P 64 |

第6章 平成27年度以降の取組みについて・・・P 69

1．事業のまとめ・・・P 69

2．ロードマップ・・・P 70

資料（別添）

1．他の離島調査アンケート調査票・集計

2．シンポジウム参加者アンケート調査票・集計

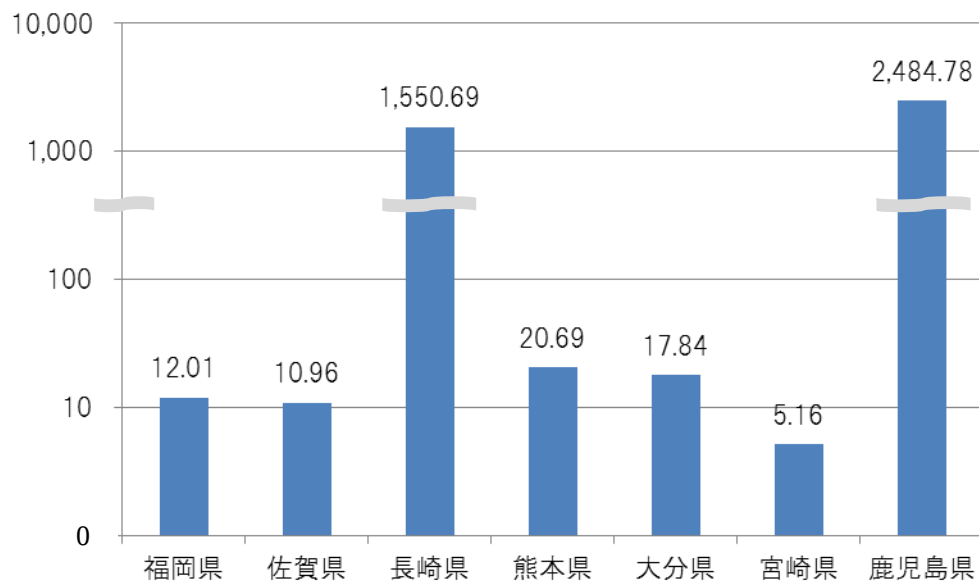
3．シンポジウムパネルディスカッション発言記録

## 第1章 調査の概要

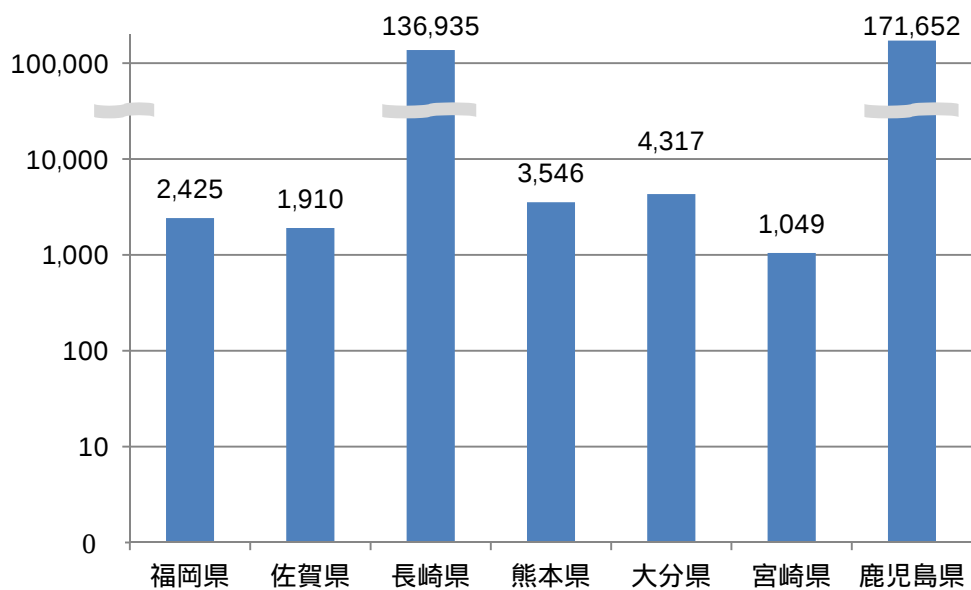
### 1. 調査の目的

九州には多数の離島が存在しており、様々な地理的制限により、少子高齢化や人口減少が進行する等の問題を抱えている。このような中、離島地域の活性化を図ることは、離島交通の改善も含め、重要課題の一つといえる。

面積(単位: km<sup>2</sup>)



面積(単位: 人)



| 県名   | 島数  | 人口       |
|------|-----|----------|
| 福岡県  | 8島  | 2,425人   |
| 佐賀県  | 7島  | 1,910人   |
| 長崎県  | 51島 | 136,935人 |
| 熊本県  | 6島  | 3,546人   |
| 大分県  | 7島  | 4,317人   |
| 宮崎県  | 3島  | 1,049人   |
| 鹿児島県 | 28島 | 171,652人 |

九州の有人離島数 110 島  
(全国 311 島)  
全国の 3 分の 1 以上を占める  
九州圏内では長崎県が最も有人  
島の数が多く、鹿児島県は人口数  
が多い。

出典：離島振興法他離島振興対策実施地域  
数をもとに算出

そこで、離島における交通アクセス等の問題点を洗い出すとともに、観光振興の手法や問題点を収集し、新たな観光振興の方策を検討し、観光における地域活性の継続化に向けた方策をとりまとめる。

## 2. 対象地域の選定

九州の離島の中で最遠隔地にある奄美群島においては、平成25年12月25日に奄美群島日本復帰60周年という節目を迎えた。また奄美群島振興開発特別措置法が平成31年3月31日まで延長されることとなった。同法施行により航空・航路運賃の軽減や島内限定旅行業の取得が計画される等、観光振興施策が進められる環境が整いつつあるため、奄美群島を選定することとした。

## 3. 調査の内容

本章「第1項 調査の目的」にあるとおり、九州圏内の離島において、観光振興の手法や問題点を収集し、対象地域の新たな観光振興策の方策を検討し、収集した観光振興策の発表を行うために実施する内容は以下の通りとした。

### (1) 他の離島における観光振興策事例の収集

九州圏内の離島において観光振興の先進的取組が見られる地域を選定し、その現況を各地域の行政担当部局や観光地域づくり実践者にヒアリング、もしくはアンケートを実施し収集する。さらに対象地域である奄美群島においては、奄美大島内の行政担当部局や、群島全体を管轄する一般社団法人奄美群島観光物産協会にヒアリングをするものとする。

### (2) 奄美群島への交通アクセスの現状の調査

ＬＣＣの就航や航空運賃の軽減計画を踏まえ、来訪者の傾向を調査する。

### (3) 観光振興策の検討

収集した観光振興策及び、交通の現状を踏まえ、観光振興策を検討する。

(4) 収集した観光振興策の発表「シンポジウムの開催」

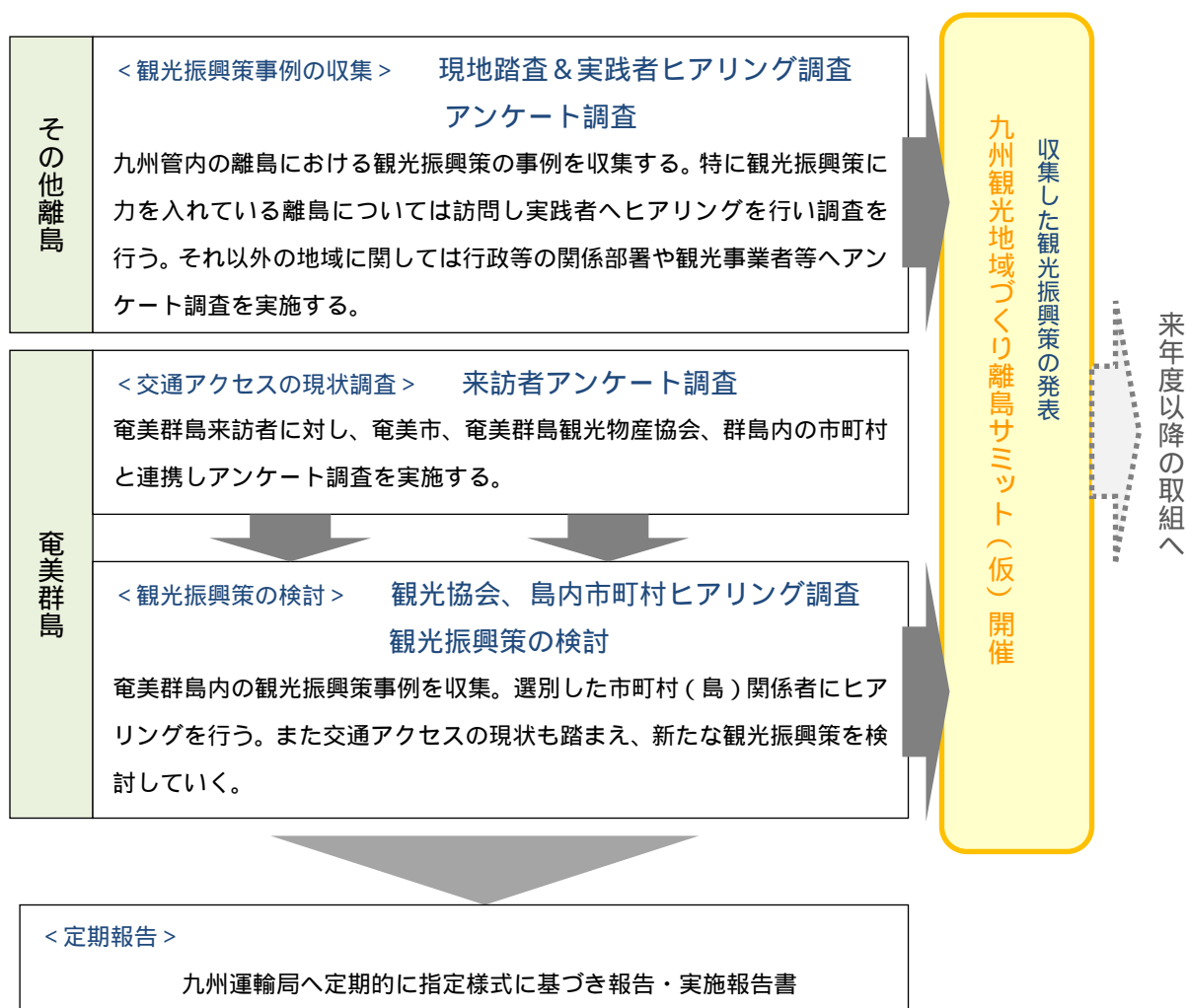
奄美群島の現状と課題、今後の方向性について関係市町村の間で情報共有するとともに、新たな観光振興策を他の離島と検討・情報共有するためのシンポジウムを開催する。

(5) 新たな観光振興策の検討(提言)

収集した観光振興策及び、交通の現状を踏まえ、対象地域における新たな観光振興における方をまとめる。また、その実現に向けてのタイムスケジュールを作成する。

## 4. 業務フロー

本調査業務は下記の流れにて実施する。



## 第2章 他の離島における観光振興策事例の収集

## 1. 調査対象地域の選定

調査対象を選定するにあたり、観光庁の推進する「観光地域づくり」の取り組みが見られるという視点から検討した。

特に、「観光地域づくり」の推進では、地域で実践するリーダーや組織が重要なファクターとなることから、観光地域づくりプラットフォームとなり得る団体や、実践者が存在する地域を重点的に考慮した。

その結果、観光地域づくりの取組みが見られる地域として、小値賀島(長崎県北浦郡小値町)、対馬(長崎県対馬市)、黒島(長崎県佐世保市)、甕島(鹿児島県薩摩川内市)、屋久島(鹿児島県熊毛郡屋久島町)を選定しヒアリングを行った。アンケートについては九州圏内の各県を網羅することを考慮し、大島(福岡県宗像市)、高島(長崎県長崎市)、壱岐(長崎県壱岐市)、玄海諸島(佐賀県唐津市)、姫島(大分県国東郡姫島町)にて行った。

## 2. 調查報告

(1)小値賀島(長崎県北浦郡小値賀町)

| ヒアリング実施日          | 対象者           |       |
|-------------------|---------------|-------|
| 平成 26 年 10 月 27 日 | おぢかアイランドツーリズム | 高砂樹史氏 |
| 平成 26 年 11 月 11 日 | 小値賀町総務課 観光係長  | 橋本博明氏 |

## 概要

小値賀島は五島列島の最北端に位置し、佐世保港から約60kmの外洋離島である。約190万年



前、海底火山の溶岩によって造り出されたなだらかな地形は耕作地としても適しており、対馬暖流による良好な漁場にも恵まれている。小田家や藤松家といった鯨組によって栄えた捕鯨の歴史も残る地域である。主な産業はサービス業・農業・漁業。人口2,692人(2014年9月、小値賀町役場HPより)

(画像提供: (公財)佐世保観光コンベンション協会)

## 島外との交通手段

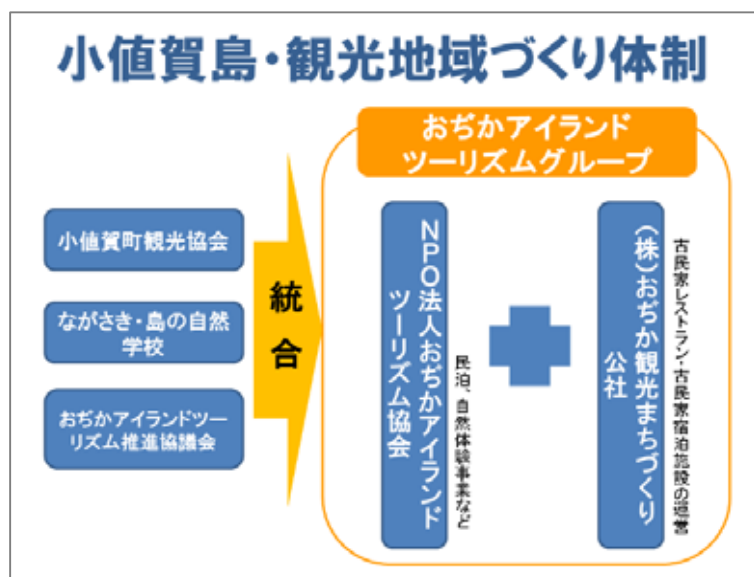
- ・博多港～小値賀港(野母商船/フェリー) 約4時間45分/片道4,840円～
- ・佐世保港～小値賀港(九州商船)
  - (高速船)約1時間30分～/片道5,360円
  - (フェリー)約2時間35分～/片道3,340円～
- \* 小値賀空港は平成18年以降休港
- \* 料金は、各航路会社HPより作成(平成27年2月)

## <観光客の島内移動手段>

- ・レンタカー(約10台)、レンタル自転車(バイク)、観光用タクシー

## 観光の現況

小値賀島では、おぢかアイランドツーリズム(グループ)が民間組織として立ち上がり、着地型観光事業、宿泊事業、民泊事業等を推進している。「島旅コンシェルジェ」という個人向けの旅行手配を行うプロも配置し、観光客のワンストップサービスを提供しているのが特徴的である。<従業員数16名、売上 約1億4千万円>



## 【事業概要と組織編制の経緯】

平成11年、本格的な自然体験活動を行うため民間が主体となり、「ながさき・島の自然学校」を設立すると共に、年間を通じて観光客誘致に繋げるために「民泊」を推進する母体として平成17年「小値賀町アイランドツーリズム推進協議会」を設立。平成19年には自然体験観光と民泊の窓口を一本化するため「NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会」として組織を統合した。

| 自然体験(アイランドツーリズム)事業 |                                                                                                                                                                            |                                                                                     |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 野崎島                | 野崎島自然学習塾村の運営                                                                                                                                                               |                                                                                     |
|                    | <p>平成13年、最後の住民が島を離れたことにより現在は無人島になっている。野生のシカ(九州鹿)のみが生息している。</p> <p>廃校となった小値賀小中学校野崎分校を簡易宿泊施設・休息施設を備えた「自然学習塾村」として管理し、野外学習や自然学習に活用している。施設管理・予約窓口・ガイド手配を行っている。</p>              |   |
|                    | 野崎島ガイドツアー(集落散策～旧野首教会見学等)                                                                                                                                                   |                                                                                     |
|                    | <p>旧野首教会は、明治41年に設計・施行されたレンガ造りの教会で、創建当時の原型が保たれている。平成元年に県の文化財に指定され、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として平成28年の世界文化遺産登録を目指している。</p> <p>*野崎島2時間ガイドウォークは年間400～500名の実績(参加費 4,000 円/人、催行2名以上)</p> |  |
| 小値賀島               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小値賀島ガイドツアー</li> <li>・サンセット クルーズ</li> <li>・波止場で小魚釣り体験</li> <li>・サイクリングガイドツアー</li> <li>・・・等</li> </ul>                               |                                                                                     |

| 民泊(農林漁業体験民宿)事業                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>平成17年には7軒だった受入先も、現在では37軒となった。</p> <p>NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会が窓口となり、予約の受付や受入先の調整、料金授受の事務処理も行っている。</p> <p>アメリカの民間教育団体「ピープル・トゥ・ピープル」による国際親善大使派遣プログラムの派遣先ランキングで、世界の派遣先の中から小値賀・平戸のプログラムが2年連続で「世界一」の評価を得たことで宿泊者数、受入先数も増加した経緯がある。</p> <p>(料金:1泊2食+1体験 8,640 円、催行2名～)</p> |  <p>((公財)佐世保観光コンベンション協会提供資料より)</p> |

## 古民家レストラン・古民家宿泊事業

平成20年度に小値賀に点在する古民家の再生事業として、11戸の古民家の基礎調査を行い、平成21年度～23年度にかけて古民家再生事業の中核となる「旧藤松邸」を地産地消古民家レストランに整備したほか、4戸を古民家ステイの施設として整備を行った（その後、さらに2戸を古民家ステイに整備）。再生された古民家レストラン、古民家ステイは、おぢかアイランドツーリズム協会によって運営されている。

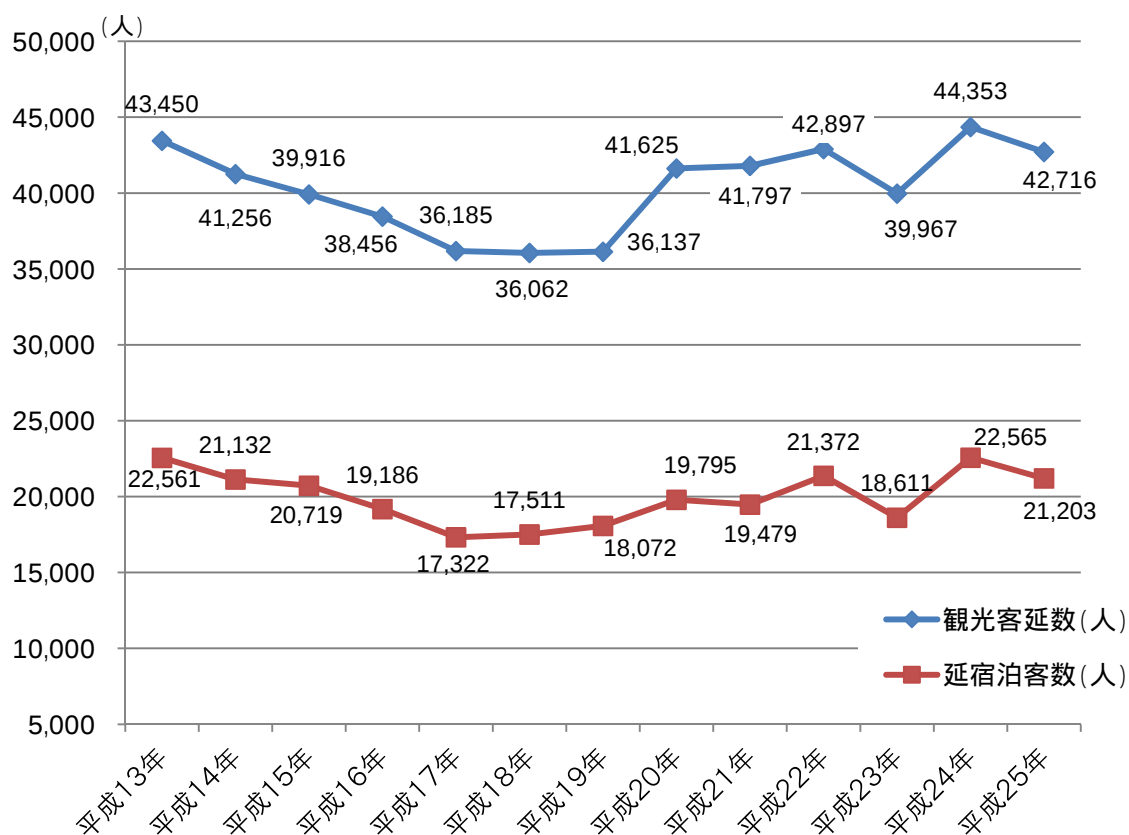
古民家修復を中心としたまち作りのコンサルタントとして著名なアレックス・カー氏がプロデュースしたため、メディア取材や視察研修等でオープン時は注目されていたが、現在はやや落ち着いてきている。

\* 古民家は1棟貸で泊食分離スタイル



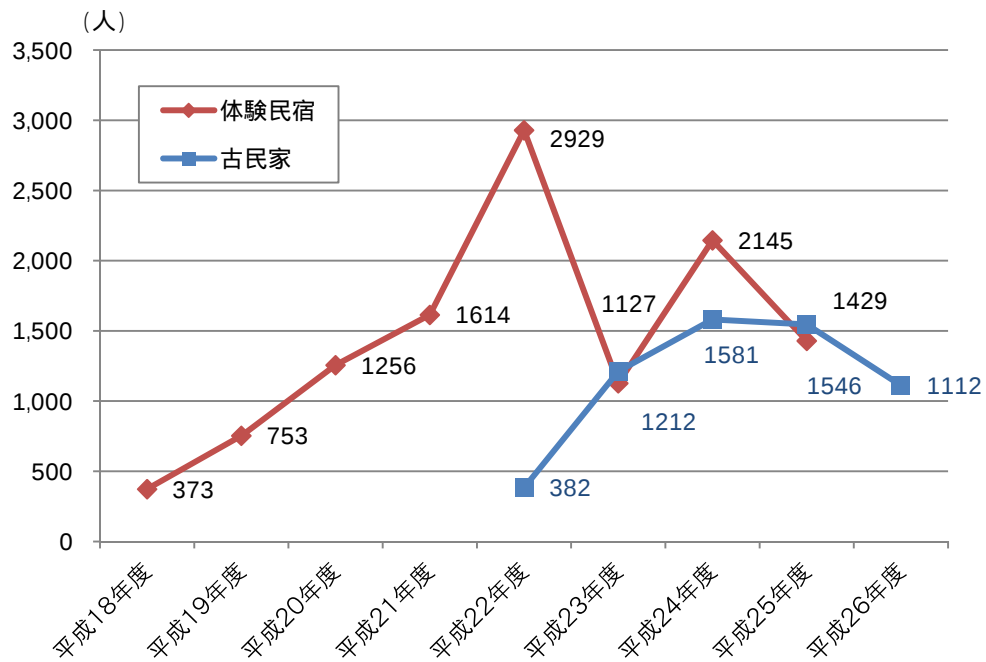
## 取組実績と今後の展開

## ・観光客延数・延宿泊者数の推移



(資料提供: 小値賀町役場)

## ・民泊数の年度別推移



(体験民宿の平成26年度データに関しては、未集計)

(資料提供: 小値賀町役場)

平成23年に起きた東日本大震災の影響で来島者数に落ち込みがみられるものの、平成19年のNPO法人の設立、平成21年の公社化以降、順調に観光客数・宿泊客数を延ばしてきている。しかし古民家の宿泊者数はピーク時に比べ7割程度となっている。

| 小値賀島の特徴と今後の展開 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特徴            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小値賀島の特徴は、観光プラットフォームとなる「おぢかアイランドツーリズム協会」が、ワンストップでの観光窓口機能を強化し、情報発信、問合せや予約の受付等の事務局機能を一手に担っている。</li> <li>・観光プラットフォームの担い手には、島にＵターンで移住定住した人材を積極的に活用しており、総務省の「地域おこし協力隊」の導入も特徴としてあげられる。</li> <li>・また、古民家や地域資源を活用した満足度の高い観光プログラムの造成を継続して実施していること、修学旅行生を中心とした民泊や自然体験学習等の事業も行うことで、観光と一次産業従事者とが連携した取組みができている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                  |
| 今後の展開         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・島内では、おぢかアイランドツーリズム協会とは別に、個人でゲストハウスを立ち上げる動きや、Ｕターン者がインバウンドに取組み始めている。都市部とのネットワークを活用し、サイクリングツアー等、既に実績もある。</li> <li>・古民家ステイの宿泊者数もピーク時に比べ落ち着いてきた感があるため、安定した誘客のためのコンテンツづくりを行い、「古民家に泊まる事プラスα」を打ち出し、継続して来訪者数を延ばしていく。</li> <li>・世界遺産登録の動きに合わせ、大手旅行会社の旅行商品パッケージ化の動きも活性化してきているが、既存の少人数受入れを想定した料金体系、ガイド・体験内容とは異なる対応を求められており、地域としての考え方、対応が必要となる。</li> <li>・世界遺産登録を見据え、質の高い外国人受入れについて検討を進めていくことが求められる。古民家ステイ、地元食材を使った安心・安全な和食、トレッキングルート等、海外の方々にとっては魅力あるコンテンツがある島であり、インバウンド対応を積極的に進めていくことは重要と思われる。</li> </ul> |

## (2) 対馬(長崎県対馬市)

| ヒアリング実施日    | 対象者                 |       |
|-------------|---------------------|-------|
| 平成26年 7月22日 | 対馬市総合政策部 観光交流商工課 課長 | 二宮照幸氏 |
| 平成26年 7月22日 | 対馬市しまづくり戦略本部 新政策推進課 | 前田剛氏  |
| 平成26年 7月22日 | (一社)対馬観光物産協会 事務局長   | 西護氏   |
| 平成26年 7月23日 | (一社)MIT             | 吉野元氏  |

**概要**

対馬島は九州最北端、プサン(韓国)まで約50km に位置し、佐渡島、奄美大島に次いで日本で3番目に面積の大きな島である。全島の約89%が森林で占められており、国の天然記念物に指定されているツシマヤマネコをはじめ、固有の希少生物が数多く生息する地域である。古代より、大陸との窓口としての役割を果たしており、江戸時代には朝鮮から通信使を迎え入れ城下町として栄えた歴史を持っている。主な産業はサービス業。人口33,050人(2014年10月、対馬市HPより)

**島外との交通手段**

< 航路 : ANA、オリエンタルエアブリッジ >

・福岡空港～対馬やまねこ空港(4往復/日)

約30分/片道 15,900円程度

・長崎空港～対馬やまねこ空港(4～5往復/日)

約35分/片道 17,300円前後

< 海路 >

(フェリー)

・博多港～厳原港(九州郵船)

約4時間30分～ /片道 4,200円～、4往復/日

・博多港～比田勝港(九州郵船)

約5時間50分 /片道 5,390円、1往復/日

(高速船)

・博多港～厳原港(九州郵船)

約2時間15分 /片道 8,080円、2往復/日

**国際航路**

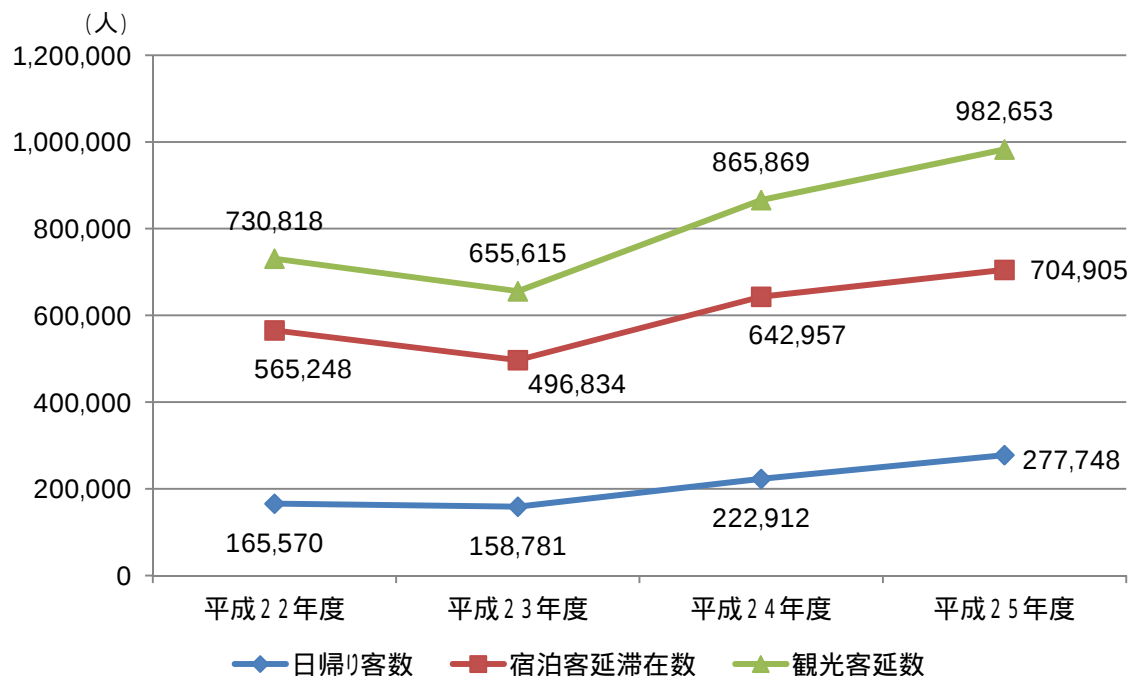
(高速船) 釜山港～厳原港 約2時間10分、釜山港～比田勝港 約1時間10分

(ジェットfoil) 釜山港～厳原港 約1時間55分、釜山港～比田勝港 約1時間10分

\* 料金は、各航路会社HPより作成(平成27年2月)

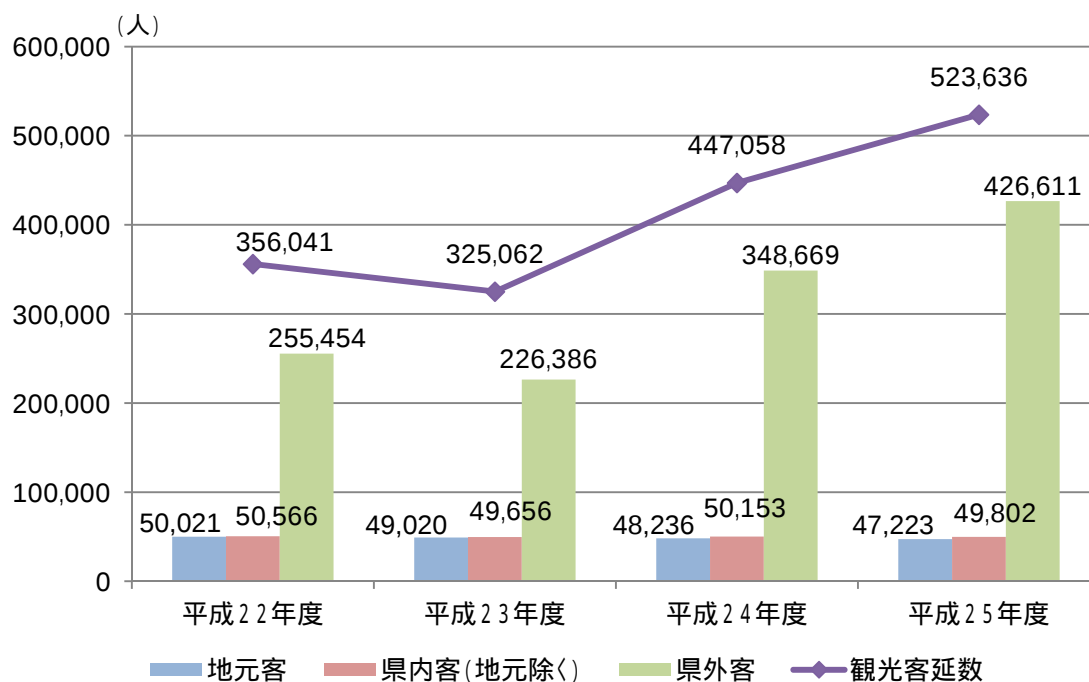
## 観光の現況

### ・観光客数の推移



(資料提供: (一社)対馬市観光物産協会)

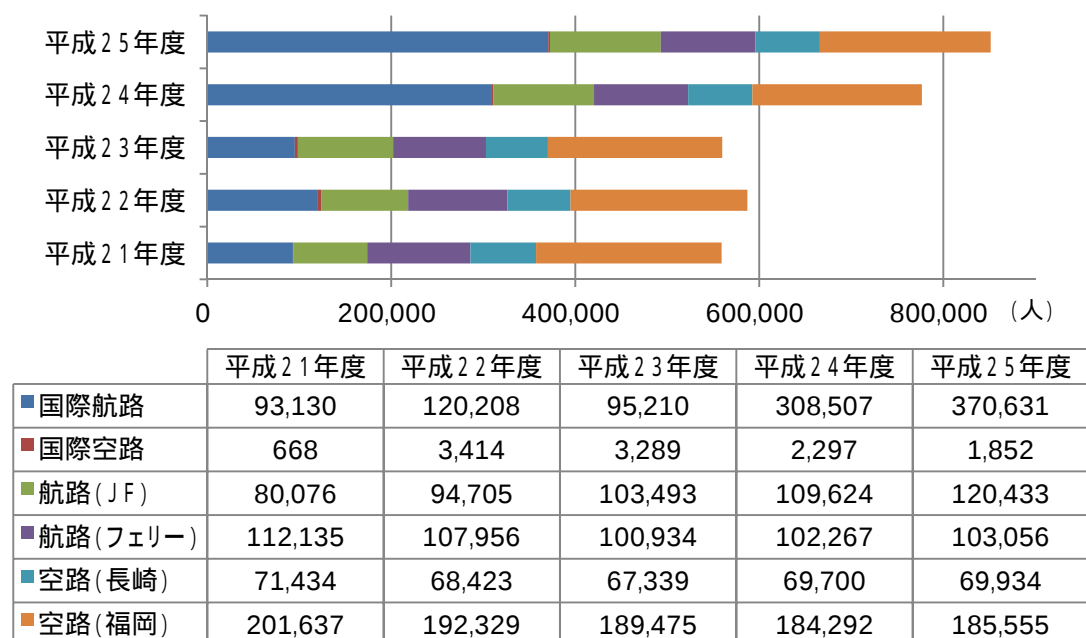
### ・観光客実数



(資料提供: (一社)対馬市観光物産協会)

## ・交通手段別利用者数

数値は、対馬での降客、乗客の合計であり、地元利用者も含む。



(資料提供: 対馬市観光物産推進本部)

対馬市の観光の特徴としては、その地理的条件より韓国人の来訪者が多いという点があげられる。平成21年は円高・ウォン安、平成23年は東日本大震災により3～6月は国際航路が運休となったが、その年11月からは3社が運航し価格競争も始まり、比較的安価で釜山～対馬間を運航している。(釜山港～比田勝港の運賃は、安い時で往復料金の50%割引となり約6,000円程度となる)

平成24年の韓国人観光客数は150,836名(全体の約34%)となっており、島内の消費額は下記の通り。

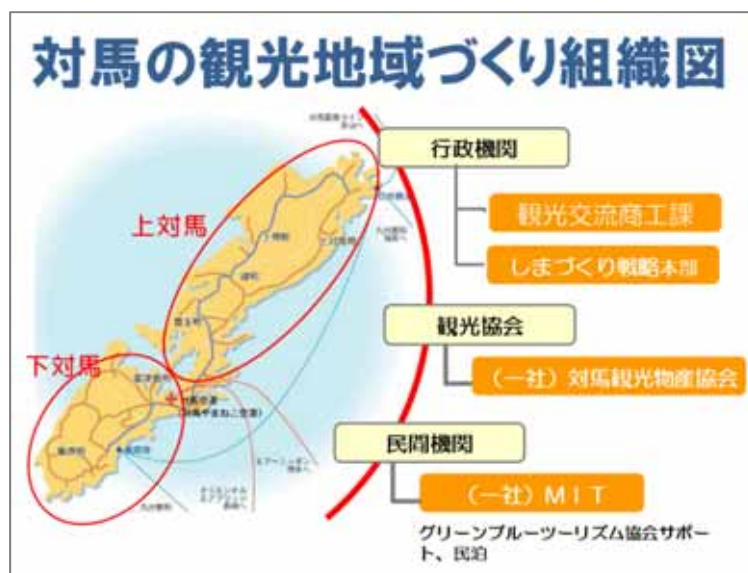
- ・交通費 230 百万円(島内交通費、高速船島内代理店手数料)
- ・宿泊費 390 百万円
- ・飲食費等 596 百万円(昼食、夕食、その他飲食・娯楽費)
- ・土産品代 2,115 百万円

合計 3,331 百万円(対馬市全体の観光消費額は、約12,144 百万円)

(資料提供: 対馬市観光物産推進本部)

### 観光地域づくりの取組と今後の展開

対馬市の観光地域づくりの組織形態は下図のようになっており、行政機関として対馬市の観光交流商工課・しまづくり戦略本部、(一社)対馬観光物産協会、(一社)MITが連携をしながら取組んでいる。

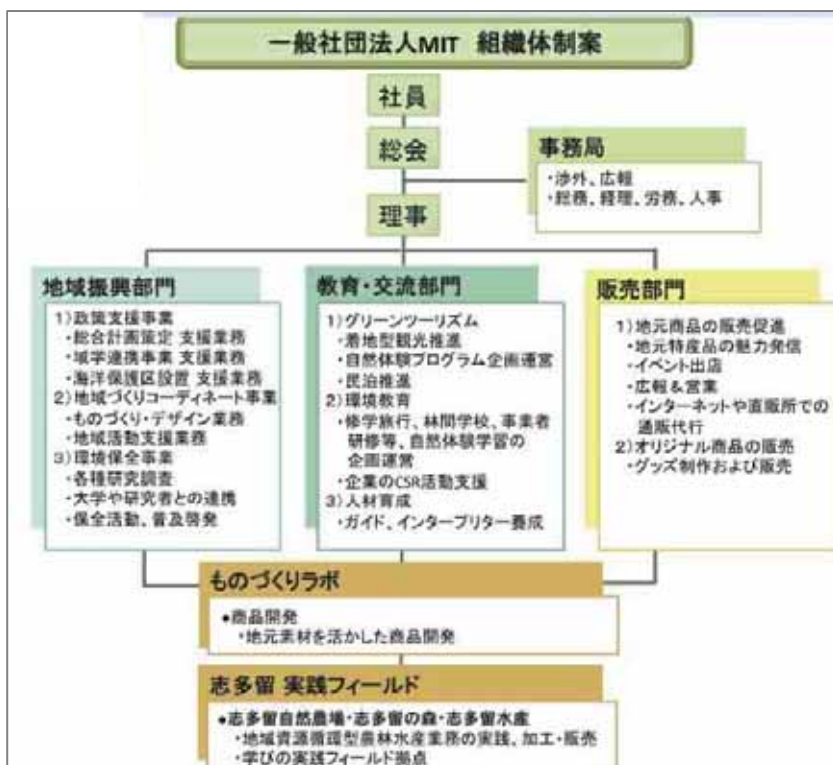


(一社)対馬観光物産協会の主な取組みに「対馬観光ガイド」がある。「対馬観光ガイドの会やんこも」事務局は(一社)対馬観光物産協会>」では、年間約110数件の観光ガイド利用がある。平成25年度のガイド手配数と利用客数は、115件/1,184名で、その内訳は、城下町歩きガイド59件(利用者数:327名)、トレッキングガイド17件(利用者数:200名)、レンタカー・バス同乗ガイド34件(利用者数:479名)、講師派遣5件(利用者数:178名)である。登録ガイドは30名(実働は10名程度)で、対馬市民総ガイド化を目指しており、小中学校の他、市民向けにも対馬の歴史や町の魅力を伝える講座を行っている。また個人で来られる韓国人観光客への対応として、国際交流員が講師となり市民向けにハングル語講座も行っており、約80名が学んでいる。

| 対馬観光ガイドの会やんこも ガイドメニュー(料金はガイド1名料金) |                    |
|-----------------------------------|--------------------|
| まち歩き歴史散策/ 2時間コース                  | 3,500 円(拝観料等は別途)   |
| バス等同乗ガイド/ 3時間コース                  | 6,000 円            |
| 6時間コース                            | 12,000 円           |
| 6時間以上                             | 17,000 円           |
| トレッキング/ 4時間以内                     | 12,000 円           |
| 4時間以上                             | 17,000 円(昼食を入れる場合) |

(一社)MITは、平成25年に設立された地域づくりを担う団体で、平成23年度に総務省の「地域おこし協力隊」制度を活用し移住した団員たちと1ターンの9名で活動をしている。対馬の自然を学びの素材として捉え、都市部の大学生の受入れや、対馬市と連携した「域学連携事業」では、行政や学生、地域とを繋ぐ中間支援組織として活躍している。

#### (一社)MITの体制・事業概要



(資料提供：(一社)MIT)

対馬市が取り組んでいる「域学連携事業」のひとつ「島おこし実践塾」は、学生が将来、地域おこしの担い手になるための気づきを与えることを目指しており、地域おこしの意味や意義を理解し、地域住民との交流を通じて地域に貢献する楽しさを実践型で学んでいくプログラムである。この「島おこし実践塾」を経験した学生がその後、リピーターとして対馬を再訪したり、集落支援員として着任する等の動きがみられはじめ、移住・定住に繋がる成果も見え始めている。



((一社)MIT 資料より抜粋。「島おこし実践塾」の様子)

| 対馬の特徴と今後の展開 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特徴          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手のIターン者を「地域おこし協力隊(対馬市では島おこし協力隊)」や、「域学連携事業」を通して島内に導入し、定住へと繋げる取組みをしている。</li> <li>・地域おこし協力隊の任期終了後、地域に定住した若者たちが、行政と地域を連携させる中間支援組織(一社)MITを立ち上げ、観光地域づくりに取組んでいる。</li> <li>・釜山からの韓国人観光客数は、新たな航路事業者の参入により年々増加している状況ではあるが、日用品買い物ツアーの域を超えておらず、観光地域づくりの展開とは交わってはいない。</li> </ul>          |
| 今後の展開       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「域学連携事業」は、実践地を島内に拡げることや、海外の大学との連携も視野に入れ計画されている。</li> <li>・日本人観光客も増やしたい考えで、5年程前からアウトドアメーカーと連携したイベントや観光PRの開催の他、「朝鮮通信使」を世界記憶遺産に日韓共同で申請する等にも取組み始めている。</li> <li>・(一社)MITは民間企業として、今後は対馬全島での観光コーディネートを担当していきたいとの考えで、グリーン・ブルーツーリズム協会のサポートを本年度から開始。また民泊型の観光商品の企画・運営も検討している。</li> </ul> |

## (3) 黒島(長崎県佐世保市黒島町)

| ヒアリング実施日    | 対象者                |        |
|-------------|--------------------|--------|
| 平成26年 8月22日 | (公財)佐世保観光コンベンション協会 | 富田由香子氏 |
| 平成26年10月26日 | 黒島地区公民館 館長         | 山内一成氏  |

## 概要

黒島は佐世保市に属し、西海国立公園九十九島を構成する208の島の1つで、九十九島に属する島の中で最も大きな島である。長崎県の天然記念物に指定されている串ノ脈岩脈に見られるように、地下の溶岩が岩盤の裂け目に入り固まり、固い溶岩が突出してできた岩脈は全長300m以上もある珍しい地質構造を持つ。また御影石が風化して出来た赤土が高質な農産物を育てている。

江戸時代中頃までは平戸藩の牧場が置かれており、人はあまり多くは住んでいなかったが、江戸時代終わり頃には牧場が廃止され、跡地の開拓が始まった時を同じくして、外(主には西彼杵半島の外海地区)からカトリック教徒が来島し、島に移住するようになった。海岸部は標高50m付近まで急な断崖となっている一方、標高100m以上はなだらかな地形となっているが、渡来してきた人々は防風林で囲われた海岸近くに住居を構え、その背後の斜面を利用して畑を開拓した。海防風林住居畑といった土地の利用法は特徴的な景観を作り出し、平成23年に黒島全域が「佐世保市黒島の文化的景観」として国の重要文化的景観に選定された。

今でも島の人口の多くをカトリック教徒が占めており、そのカトリック教徒たちが建てた「黒島天主堂」は島のシンボルとして島民の祈りの場であると共に、平成28年度に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成遺産の一つとして世界文化遺産登録を目指している。主な産業は漁業・農業。人口約450人(2014年9月調べ)で、平成17年の国勢調査時(当時は900名)に比べ、約半数に減少し、人口の半分以上が65歳以上と高齢化が進んでいる。



## 島外との交通手段

## &lt; 海路 &gt;

## (フェリー)

・相浦港～黒島港(黒島旅客船)

約50分～ / 片道 720円～、4便/日

\* 冬季は3便運航

\* 料金は各航路会社HPより作成(平成27年2月)

(画像提供: (公財)佐世保観光コンベンション協会)

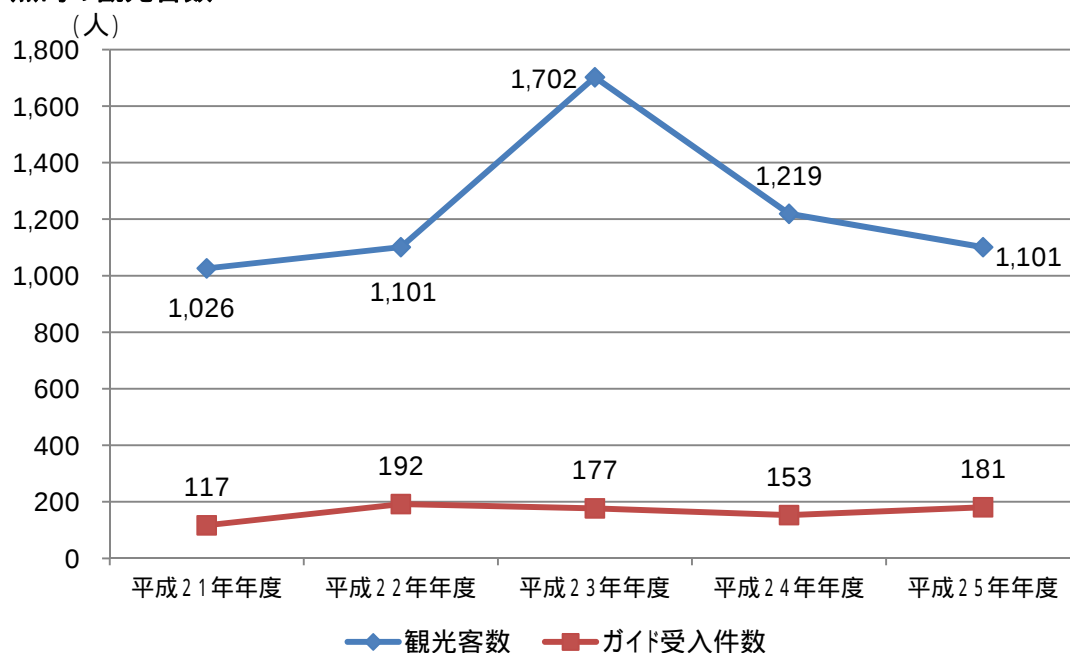
## &lt; 観光客の島内移動手段 &gt;

徒歩のみ。宿泊業者(旅館・民宿)が港から宿までの送迎をしている。

## 観光の現況

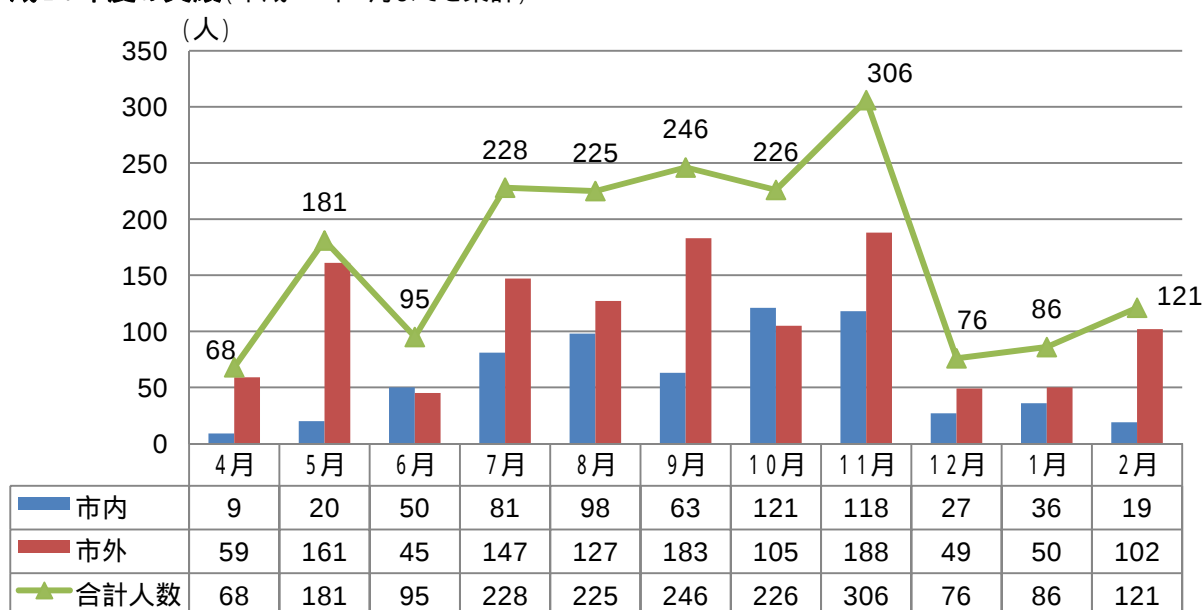
平成12年に黒島天主堂が県の重要文化財に指定された後より観光客が増加してきたが、平成28年に世界文化遺産登録を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」に関連し、注目度が高まり観光客も増加傾向にある(平成26年度は1,963人となる予定で、前年に比べ約1.8倍となる)。

### ・黒島の観光客数



(黒島地区公民館提供資料より作成)

### ・平成26年度の実績(平成27年2月までを集計)



(黒島地区公民館提供資料より作成)

黒島における観光の課題は 島内交通の問題、 島内に飲食店・宿泊施設が少ない(島内の宿泊施設は3軒)点である。島内での移動は徒歩しかなく、宿泊客に関しては島内の民宿による送迎が行われている。また島内の飲食施設は1軒しかないが、事前に予約すれば民宿や旅館で昼食を取ることができる。島内での年間宿泊者数は200名程度と想定され、日帰り観光客が8割を占めており、今後、島内での滞在を延長する取組み(滞在観光商品の開発、滞在する施設の整備等)が予定されている。

### 観光地域づくりと今後の展開

世界文化遺産登録を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成遺産の一つである「黒島天主堂」見学を目的に、観光客の増加が見込まれることから、観光庁の観光圏整備実施計画による「『海風の国』佐世保・小値賀観光圏」の取組みでも重点エリアとして、(公財)佐世保観光コンベンション協会が主体となり、地域住民と協議をしながら滞在交流型プログラムの造成やガイド育成などに取り組んでいる。(公財)佐世保観光コンベンション協会が主催する「SASEBO 時旅」プログラムとして、黒島の資源を活用した「建築士が解き明かす黒島天主堂ツアー」や、「島とうふづくり体験」、「島のふくれ饅頭づくり体験」等のプログラムがある。

| 時旅プログラム(例)                                                                          |    |                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------|
| 建築士が解き明かす黒島天主堂                                                                      |    |                                                               |
|  | 内容 | 佐世保市在住の建築士が黒島天主堂の建築技術等を案内。島内の散策や昼食は、黒島史跡保存会のガイドや黒島の島民が提供している。 |
|                                                                                     | 価格 | 7,200 円(フェリー乗船料・ガイド料・昼食・おやつ)                                  |
| 島とうふづくりと島ごはん                                                                        |    |                                                               |
|  | 内容 | 島内散策の後、昔から家庭で作られてきた「島とうふ」の作り方を島のお母さんがレクチャー。佐世保から別途ガイドが付く。     |
|                                                                                     | 価格 | 7,200 円(フェリー乗船料・インストラクター・現地ガイド料・体験料)                          |

((公財)佐世保観光コンベンション協会発行「時旅プログラム」冊子より作成)

これまでも平成12年に設立した「黒島史跡保存会」で観光客のガイドを行ってきたが、世界文化遺産登録を契機に、島のコミュニティビジネス化を目指し、新しくNPO法人黒島観光協会を設立する予定である(平成27年1月に登録。会員は正会員53名、賛助会員2名)。

島の人口減少に伴う少子高齢化の問題は危機的であり、島民の224名が70歳以上の高齢者で、且つ、独居老人の割合も高い。これらのことから島に雇用場をつくり、人口を増やし子どもたちが島で働いて暮らせるようにしたいと島民有志が立ちあがった。NPO法人黒島観光協会の設立目的は、地域の資源(文化、歴史、自然等)を活用し、地域の課題(少子高齢化)解決に向けた事業(コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス)で、黒島の地域づくりを行うことである。主な事業を観光事業としており、滞在プログラムの企画造成・販売、コーディネート業、観光案内業、土産物の開発、民宿促進への取組み等も検討している。

計画している滞在プログラムのひとつに、遊漁船で黒島を一周するプログラムを検討している。漁業就業者の多い地域でもあることから、第一次産業と観光を連携させることで、地域への経済効果をどのように高められるか、また既存の飲食店・宿泊施設とどのように連携し相乗効果を高めていけるかが課題である。NPO法人黒島観光協会では、人口約500名程度の島であることから島民全員にNPO法人への参加を呼びかけ、地域住民が共通の目的意識を持ち活動していきたい考えである。



(漁師の遊漁船クルーズを島民モニターで検証している様子)

| 黒島の特徴と今後の展開 |                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特徴          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度に世界文化遺産の登録を目指しており、観光に対して島民が意識を持ち始めた地域である。観光業に携わる事業者のいない地域で、今後、どのような取組みが図られるか注目すべき地域でもある。</li> <li>・観光地域づくりの担い手として、平成27年度4月より、総務省の「地域おこし協力隊」が2名導入される予定である。</li> </ul> |
| 今後の展開       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界文化遺産登録を見据え、島内のコミュニティビジネス化を図り、島民たちが組織するNPO法人黒島観光協会を設立し、観光地域づくりに取り組む予定である。島民の多くは一次産業(主に漁業)従事者であることから、観光と漁業・農業従事者との連携がどのように展開されるか期待されるところである。</li> </ul>                    |

## (4) 甑島(鹿児島県薩摩川内市)

| ヒアリング実施日    | 対象者                       |       |
|-------------|---------------------------|-------|
| 平成26年 8月 5日 | 薩摩川内市商工観光部<br>観光・シティセールス課 | 中村年男氏 |
| 平成26年 8月 5日 | 株式会社ヒラミネ                  | 斎藤順子氏 |
| 平成26年 8月 5日 | 東シナ海の小さな島ブランド株式会社         | 山下健太氏 |

## 概要

甑島は薩摩川内市から西方約26kmの東シナ海上に位置し、北部に位置する上甑島、中部に位置する中甑島、南部に位置する下甑島の3つの島から形成される。波の浸食作用によってできた海食崖は断崖・奇岩を形成し、古いもので約8,000万年前の白亜紀まで遡るといわれ、平成21年に「日本の地質百選」に認定されており、ウミネコ繁殖の南限地、九州唯一の海洋深層水の取水地でもある。平成27年3月には、景勝地として知られる「長目の浜」が国の天然記念物に、また甑島全域が「甑島国定公園」に指定される予定となっている。主な産業は水産業。人口5,043人(2014年住民基本台帳登録人口より)



## 島外との交通手段

&lt; 海路 &gt;

(高速船)

・川内港～里港(甑島商船)

約40分～/片道 3,380円～、2便/日

(薩摩川内市作成パンフレットより抜粋)

(フェリー)

・串木野新港～里港(甑島商船)

約1時間15分～/片道 2,390円～、2便/日

&lt; 観光客の島内移動手段 &gt;

・レンタカー、レンタバイク(2台)、レンタサイクル(8台)、タクシー(1台)、島内の定期路線バス

\* 島内の定期路線バスは、生活路線のため、観光スポットを訪れるには適しておらず、高速船の臨時便との乗り継ぎが連携していない。

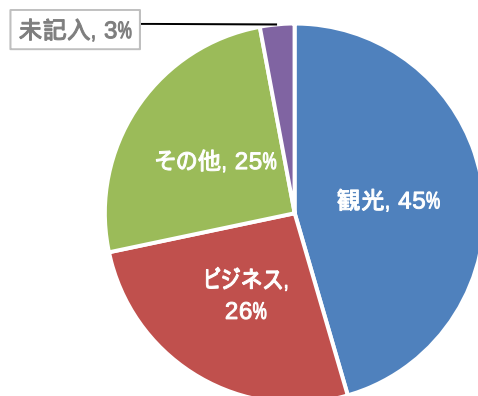
\* 料金は各航路会社HPより作成(平成27年2月)

## 観光の現況

甑島への唯一のアクセス方法は船舶であるが、平成26年4月からJR九州の車両デザインを手掛ける水戸岡悦治氏のデザインした高速船が運航し話題となった。薩摩川内市ではこれまで甑島の観光状況を把握する十分なデータを取っていなかったが、この高速船利用者に対してアンケート調査を実施し、データを収集し始めたところである。

平成26年4月～9月にかけて、高速船を利用した14,111名の調査データによると、離島目的は「観光が46%」、「ビジネスが26%」の割合であった。

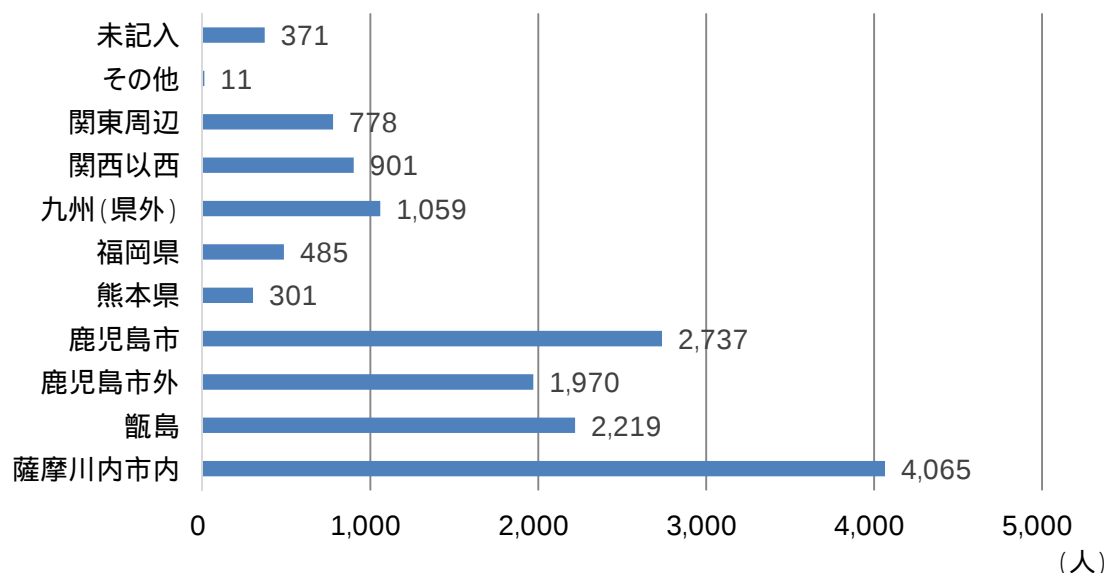
### ・利用目的



|      |          |
|------|----------|
| 観光   | 6,419 人  |
| ビジネス | 3,699 人  |
| その他  | 3,578 人  |
| 未記入  | 415 人    |
| 計    | 14,111 人 |

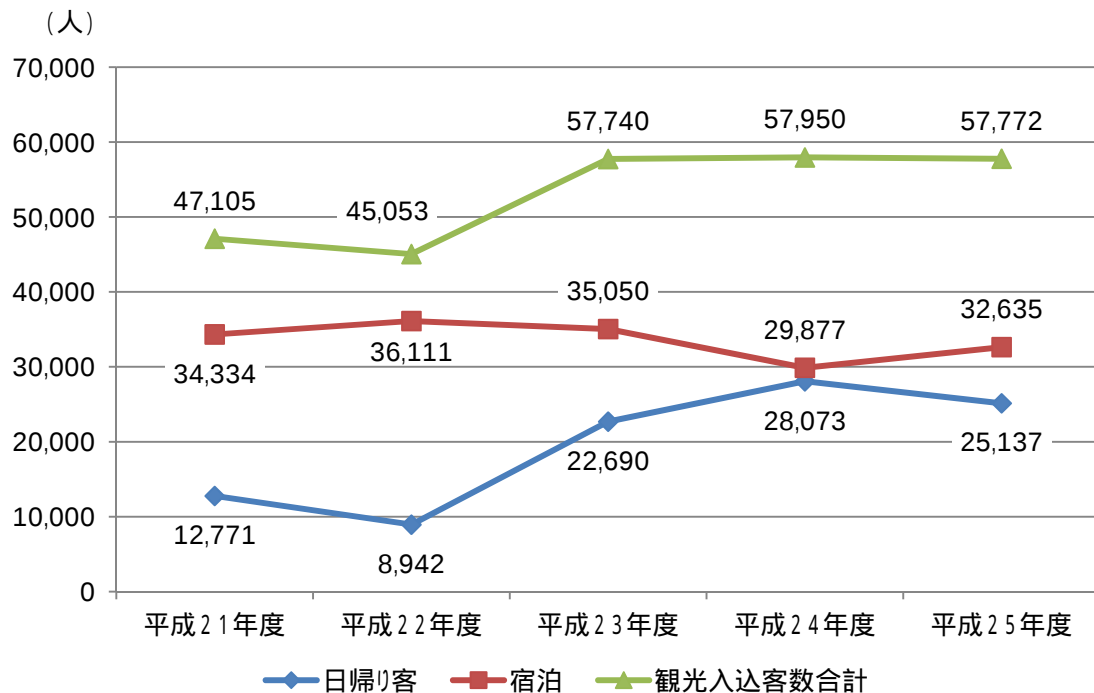
(薩摩川内市提供資料より作成)

### ・居住地



(薩摩川内市提供資料より作成)

・甌島の観光入込客数



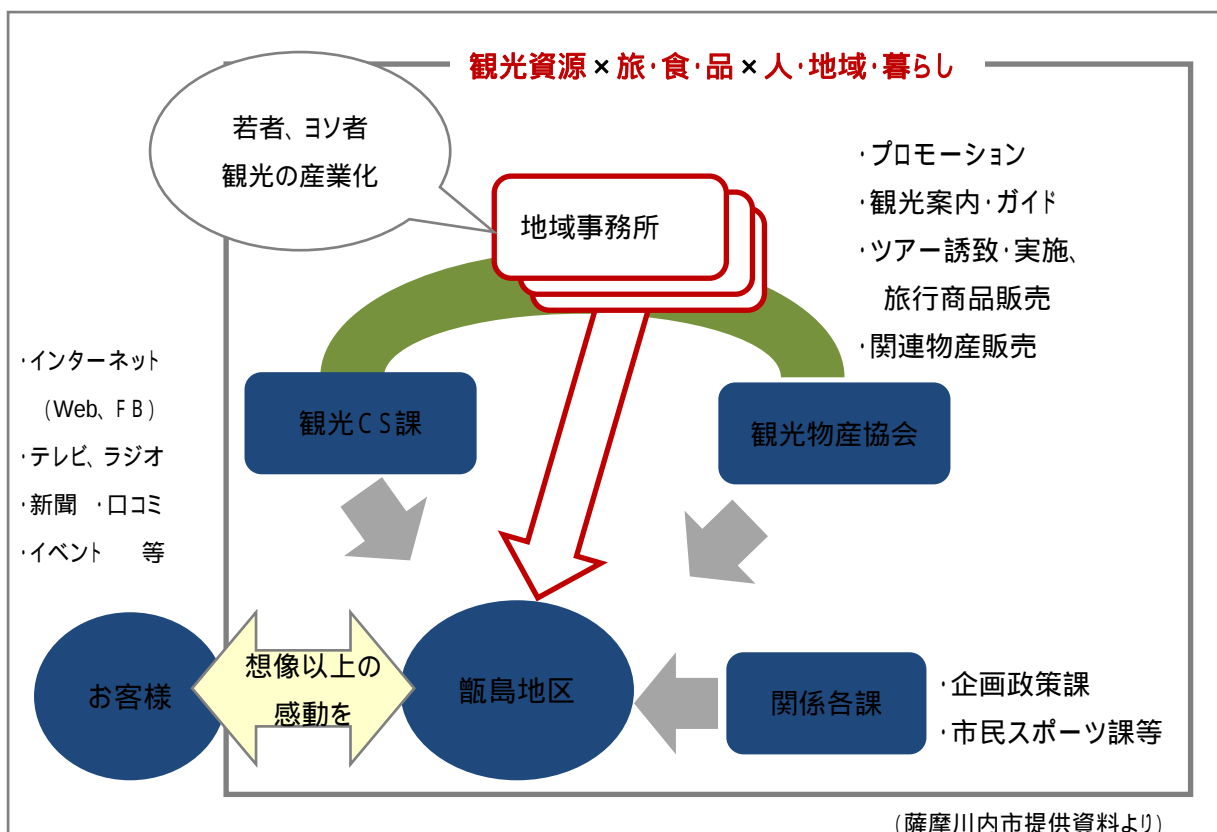
(薩摩川内市提供資料より作成)

・観光振興における主な取組経緯

|        |                                                                                                                                                    |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成21年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光元年宣言</li> <li>・九州新幹線全線開業に伴い、甌島ブルーツーリズム推進協議会が発足</li> <li>・体験型プログラム「薩摩川内スピリッツ・きやんせ博覧会(きやんぱく)」開始</li> </ul> |
| 平成22年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新観光船かのこ就航</li> </ul>                                                                                       |
| 平成23年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼっちゃん計画開始</li> </ul>                                                                                       |
| 平成24年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・薩摩川内市役所に観光・シティセール課の設置</li> </ul>                                                                           |
| 平成25年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社薩摩川内市観光協会が発足</li> <li>・第2期ぼっちゃん計画開始</li> <li>・地域おこし協力隊(4名)の導入</li> </ul>                               |
| 平成26年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速船甌島就航</li> <li>・川内港観光案内所開設</li> <li>・甌島国定公園指定(平成27年3月16日)</li> </ul>                                     |

### 観光地域づくりの取組みと今後の展開

甑島の特徴は、所属する薩摩川内市の中に「観光シティ・セールス課」という市を挙げて観光に特化して行う部署があること、また行政と連携した「株式会社薩摩川内市観光物産協会」という観光・特産品販売を担う組織の存在、そして島内で着地型観光商品の販売やガイド業、飲食業を営む民間組織が目立って存在していることである。甑島における観光地域づくりの組織体制は下図の通り。



#### 連携した取組 : 体験型プログラム「薩摩川内スピリッツ・きやんせ博覧会(きゃんぱく)」

薩摩川内の「自然・歴史・文化・食・産業」等、地域資源を活用した体験・交流プログラムで、市民が体験プログラムを造成し、市が事務局として支援している。甑島では、島内で旅行業・ガイド業を営む株式会社ヒラミネ、こしきツアーズ、豆腐・土産物屋を営む株式会社山下商店とも連携をし、プログラムの造成を行っている。

#### 連携した取組 : ぽっちゃん計画

平成23年度より厚生労働省から支援を受け、「シティセールス雇用創造推進事業」に取組んでおり、地域住民と連携しながら、地域に持続可能な生産・雇用サイクルをつくり、地域の魅力をまるごとブランド化(商品化)し全国に売り込むという壮大な計画。その一環として平成23年に6名の若者が移住し、地域に雇用創出する取組みをスタートさせた。

## 連携した取組 : 地域おこし協力隊の導入

薩摩川内市では平成25年度に地域おこし協力隊4名(上甕島2名、下甕島2名)導入し、観光地域づくりに取り組んでいる。地域おこし協力隊の主なミッションは、地域資源を活用した体験・交流型プログラムの造成、地域資源を活用した特産品の開発であり、平成25年度の実績は、商品開発やイベント数46企画(内、販売に結び付いた企画36企画)、開発商品・イベント等での販売実績260万円となっている。特に商品開発においては、島内の事業者と連携をして商品を開発することで、地域住民らの観光に関する意識喚起ができ、旅行者受入の機運向上に繋がっている。

(地域おこし協力隊の実績例)

| 体験・交流型プログラムの造成例                                                                     |    |                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中甕島の平良集落のまちあるきツアー                                                                   |    |                                                                                                                          |
|   | 内容 | <p>普段、観光客が訪れない地域を地元ガイドが案内。平成26年4月～11月に毎月開催。</p> <p>4月：3件、 5月：5件、 6月：2件、<br/>7月：15件、 8月：3件、 9月：2件、<br/>10月：1件、 11月：8件</p> |
| 下甕島古道再生プロジェクト                                                                       |    |                                                                                                                          |
|  | 内容 | <p>地域活性、宿泊客を増やす取組みとし、古道をトレッキングルート化するプロジェクトを実施。</p> <p>平成26年2月8日にイベントを開催し、島外客を誘客。</p>                                     |
| 商品開発例                                                                               |    |                                                                                                                          |
| たかえび味噌                                                                              |    |                                                                                                                          |
|  | 内容 | <p>甕島の産品である「たかえび」を地元の加工グループと協業し開発。</p> <p>このほかにも、椿を利用した「椿オイル」や、アロエを活用した「島アロエソルト」や「島アロエジャム」等を開発し販売。</p>                   |

(薩摩川内市より提供)

### 島内の民間企業による取組 : KOSHIKI ART PROJECT

平成16年に甑島全体を展示会場にした展覧会がきっかけとなり、平成25年の夏まで毎年開催されていた滞在制作型プロジェクト。島外の学生やアーティストが島へ来て空き家等で創作活動を行い、都市部の視点で島の魅力をアートとして表現している。甑島出身の作家と仲間たちでスタートした取組みから、島民や薩摩川内市もバックアップした取組へと展開された。



((株)ヒラミネより提供)

### 島内の民間企業による取組 : 着地型観光商品の開発・販売

上甑島にある株式会社ヒラミネ、こしきツアーズ、東シナ海の小さな島ブランド株式会社(山下商店)等の若手が中心となり、地域の資源を活用した観光プログラムを造成し、自ら告知・販売・実践している。彼らの多くは、上記に述べた「ぼっちゃん計画」や、「KOSHIKI ART PROJECT」に立上げ当初から携わってきており、それぞれのプロジェクトを経て地域に定住しながら、観光地域づくりを事業として取組んでいる。

(主なプログラム)

| プログラム(例)                                                                            |    |                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------|
| ナイトツアー                                                                              |    |                                                          |
|  | 内容 | 星明りに島影が浮かぶ夜、打ち寄せる波の音、頭上に広がる星。そんな島の夜を体験できるプログラム。          |
|                                                                                     | 価格 | 3,000 円(ガイド料、お茶代)、定員/2～8名                                |
| しまなび                                                                                |    |                                                          |
|  | 内容 | ガイドブックには載っていない島の日常を案内。島に暮らす若者がガイドしながら、そこに暮らす人々とも触れ合える内容。 |
|                                                                                     | 価格 | 1,500 円(ガイド料)、定員/2名～                                     |

写真は(株)ヒラミネより提供

| 甌島の特徴と今後の展開 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特徴          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・薩摩川内市観光・シティセールス課、観光物産協会、民間が連携し、観光地域づくりを実践していることが一番の特徴である。民間が主体となり、その支援を各機関が行う好例ともいえる。</li> <li>・また行政は同時に、観光地域づくりの実践者として外部の若者を雇用する等を行い、島の活性化を図っている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 今後の展開       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題として、島内交通の問題が挙げられるが、薩摩川内市では、エコツーリズム推進協議会の立上げを目指しており、「甌ツーリズムビジョン」策定の中でも、レンタカー、タクシー、コミュニティバス等、島内移動手段の環境整備、観光ガイド等による自家用車送迎に対する法規制への対応、蘭牟田瀬戸架橋（平成30年度予定）を契機とした自転車観光の推進、海上交通の利用環境の向上を取り上げており、2次交通の課題解決策を検討している。</li> <li>・平成27年度には、JR九州と連携し「新幹線（博多～川内）、バス（川内駅～川内港）、高速船（川内港～甌島）」を結ぶ連絡切符の販売も計画している。夏休みおよび土日での臨時便の運航や、そのタイミングに合せた島内観光バスの運行も計画。JRグループとの連携を強め、島外からの新たな観光客集客に努める計画である。</li> <li>・島内の宿泊収容数は157人/日と限りがあるため、民間企業の東シナ海の小さな島ブランド株式会社が民宿業も検討している。島の夜の魅力を発信するナイト・プログラムと併せたPR発信を行う等、「数より質」の高い観光に取り組んでいる。</li> </ul> |

## (5) 屋久島(鹿児島県熊毛郡屋久島町)

| ヒアリング実施日     | 対象者               |       |
|--------------|-------------------|-------|
| 平成26年 10月 8日 | 屋久島町役場 商工観光課 課長   | 松本薫氏  |
|              | 屋久島町役場 商工観光課 課長補佐 | 長美佐子氏 |
|              | 屋久島町役場 会計管理者      | 眞辺千里氏 |

## 概要

屋久島は鹿児島市から南方約135km、九州最南端の佐多岬から南南西に60kmに位置し、屋久島と口永良部島から構成される。屋久島は、周囲約132kmのほぼ円錐形の形をしており、北方領土を含め全国で6番目に大きな島である。島内には、九州一の宮之浦岳をはじめ1,000mを超える山が30座余り連なり、日本最南端の積雪地にもなっていることから、洋上のアルプスと呼ばれている。島の約90%を森林が占め、海岸から約2,000mまでの標高差に、亜熱帯から冷帯地までの植物が垂直に分布しており、世界的にも特異な自然環境を有している。推定樹齢7,200年の縄文杉をはじめとする固有種(ヤクシマと名の付く固有種だけでも130種を超える)を含めた貴重な動植物が生息・自生することより、平成5年に日本で初めての世界自然遺産に登録され、また平成24年には屋久島地域(口永良部島を含む)が日本で30番目となる屋久島国立公園として指定されている。



## 島外との交通手段

(出展:屋久島役場HP 平成26年6月現在)

## &lt; 空路 &gt;

・大阪伊丹空港～屋久島空港(JAC)

最短1時間20分/往復割引料金 64,000円、1便/日

・福岡空港～屋久島空港(JAC)

最短1時間10分/往復割引料金 43,800円、1便/日

・鹿児島空港～屋久島空港(JAC)

最短35分/往復割引料金 25,900円、5便/日

## &lt; 海路 &gt;

(高速船)

・鹿児島港～宮之浦港(種子屋久高速) 最短1時間45分/往復割引料金 16,700円、7便/日

(フェリー)

・鹿児島港～宮之浦港(フェリー屋久島2) 最短4時間/往復割引料金 8,300円、1便/日

屋久島から口永良部へは町営フェリー(フェリー太陽)のみ。

1時間40分/往復割引料金 4,200円、1便/日

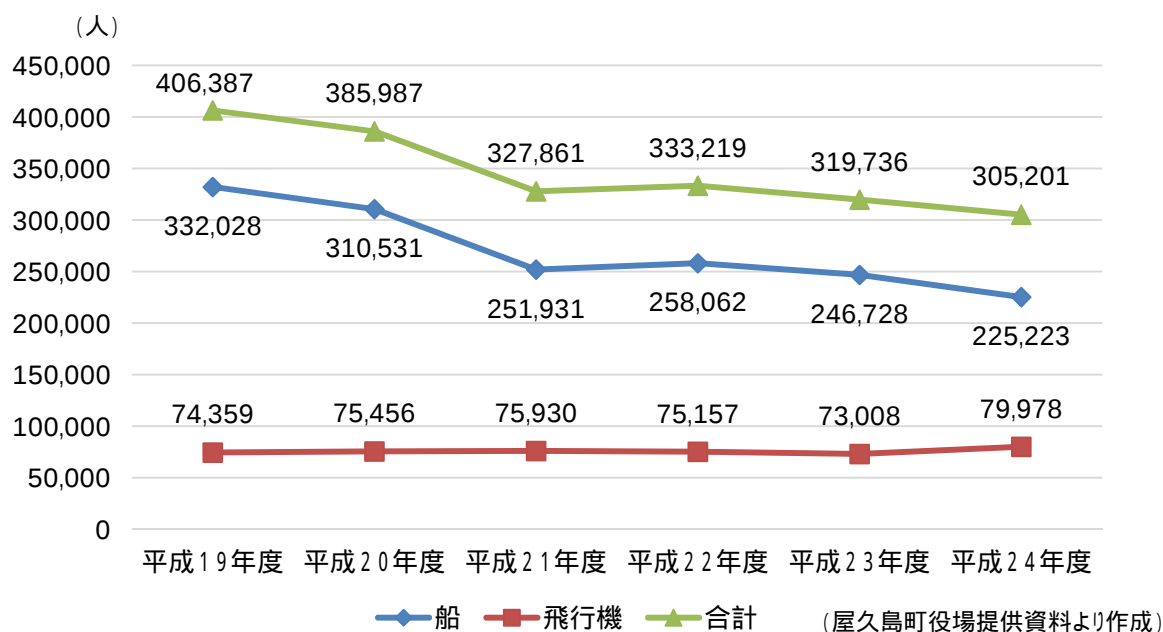
## 観光の現況

屋久島の観光の変遷は、平成元年に高速船が運航し始めたことを契機に、平成5年の世界自然遺産登録もあり、平成19年度には観光入込客数は40万人を超えた。日本で初めて世界自然遺産に登録されたことにより、地元の受入体制が整わないまま観光客が増加し、外部資本が入り込む等、「観光客が増えても地域が潤わない」、「ガイドも外部からの移住者が多く、地元雇用が創出されない」、といった課題が挙げられていた。

### ・屋久島の変遷(観光にインパクトを与えたと思われる事柄)

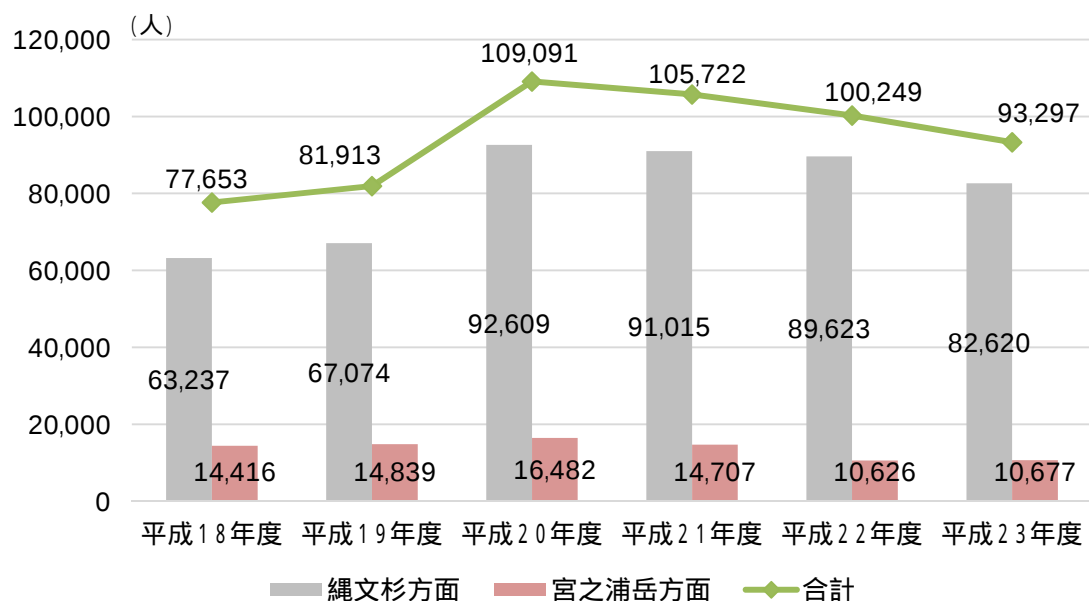
|         |                                                                                                                   |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 元 年  | ・高速船トッピーが就航                                                                                                       |
| 平成 5 年  | ・世界自然遺産登録                                                                                                         |
| 平成 9 年  | ・ジブリアニメ「もののけ姫」が放映(屋久島の白谷雲水峡がモデルの一つ)                                                                               |
| 平成 17 年 | ・永田浜がラムサール条約に登録                                                                                                   |
| 平成 21 年 | ・JAC大阪(伊丹)～屋久島線が就航<br>・ミシュラングリーンガイド三ツ星を獲得<br>・屋久島町エコツーリズム推進協議会が発足<br>・山岳部の携帯トレイ導入開始<br>・縄文杉登山ルート荒川登山口の車両乗り入れ規制の開始 |
| 平成 23 年 | ・JAC 福岡～屋久島線が就航                                                                                                   |
| 平成 24 年 | ・高速船運航会社の統合で、常時7便運航から6便へ減便<br>・鹿児島空港へLCC(格安航空会社)が参入                                                               |

### ・観光入込客数



屋久島の観光は、縄文杉に代表されるように山岳部が中心である。山岳部への過剰な車両の乗り入れが環境負荷となっていることより、縄文杉の登山ルート上の登山口である荒川登山口まで、平成21年度から車両乗り入れ規制を実施。入山者数をみると、平成20年度が約11万人であったが、ほぼ10万人前後で推移しており、来島する観光客の3分の1が訪れている。

#### ・入山者数の推移



(屋久島町役場提供資料より作成)

#### ・観光客の増加に伴う弊害

屋久島の観光における課題としては、観光客の増加に伴う環境破壊(特に登山道の荒廃、ゴミや山岳トイレの問題)、交通の問題(山道の運転に慣れない観光客の交通事故等)、ガイドの問題(レベルに差異があり、観光客の満足度に左右することから、認定制度を設け情報公開をし、指導する体制を整えている)、閑散期における観光客数の減少(12月～2月は入山規制される)、観光産業が第一次産業などの他の産業へ効果波及する仕組みができない等が挙げられる。



(登山道入り口のトイレの様子)



(シャトルバスに行列ができている様子)



(駐車場が足りず路上駐車している様子)

(写真提供: 屋久島町役場)

## 観光地域づくりの取組みと今後の展開

観光産業を中心に、その他の第一次・二次・三次産業へと効果を波及させることにより、地域経済の活性化や雇用の創出に取組もうと、平成27年度を目途に「屋久島町観光基本計画」を検討し始めている。主に、農業で成り立ってきた島の歴史から、高齢者の多くは一次産業従事者が多く、近年は高齢化に伴い、観光産業以外の従事者が減少している背景を受け、「農業基本計画」と連携した計画策定を検討している。その際に基軸となるのが「島民の幸福度尺度」をどこに設定するのか、という点である。前述した通り、観光客はピーク時の40万人より減少し、年間30万人で推移しているが、屋久島町役場としては、これまではメディアや観光客の流入で受入能力を上回る状況が起きたと捉えており、世界自然遺産という自然環境保護の適正化と、観光における収容の適正化を図るために、観光入込客数ではない別の指標を島民と協議していきたいとしている。

観光に携わる機関としては、屋久島町役場、公益社団法人屋久島観光協会、屋久島町商工会がある。主な観光資源である縄文杉、宮之浜、屋久杉ランド、白谷雲水峡等、観光客を特定の場所に集中させるのではなく、島内及び口永良部まで全域に分散させる取組みを各集落と連携をして行い始めている。

山や自然だけでなく、里地の人の営み、歴史、伝統等を紹介する

「地元の語り部と語る 屋久島里めぐり」のパンフレット



(資料提供: 屋久島町役場)

また、「世界自然遺産 屋久島」の地域資源を生かした地域づくりを推進し、雇用の拡大を目的として設立された屋久島町地域雇用創造推進協議会(ネクスト屋久島応援隊)では、地域資源発掘セミナー等を通じ、食の開発や、観光商品の開発、里ガイドセミナー等も開催し、その情報を島内外へ発信する取組みを行っている。

| 屋久島の特徴と今後の展開 |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特徴           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次産業で成り立ってきた屋久島が世界遺産登録等を契機に、観光が基幹産業になってきたことで地域に生じた課題は、今後、世界遺産登録を見据えている地域のみならず、観光振興に取組む地域の参考となる。</li> <li>・世界自然遺産登録から20年経った現在、ようやく屋久島の島民自身が観光を基幹産業と捉え、地域への経済波及、地域の活性化に取組もうと動き出している。</li> </ul>                         |
| 今後の展開        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光と第一次産業とを連携させる施策に取り組むべく、20年後の屋久島の姿を目指す「屋久島町観光基本計画」の策定を平成27年度に予定しており、主に一次産業振興を目指す「農業基本計画」と連動させ、観光産業を中心に、雇用の創出や地域経済の活性化に取組む計画である。計画は島民の意見を反映するものとし、島民アンケートやワークショップを行いながら、環境と観光に携わる関係者も含めた協働の観光地域づくりを目指している。</li> </ul> |

## (6) その他の離島

本調査事業では、これまでに記載してきた5つの離島へのヒアリング調査の他、大島(福岡県宗像市)、高島(長崎県長崎市)、壱岐(長崎県壱岐市)、玄海諸島(佐賀県唐津市)、姫島(大分県国東郡姫島町)については、行政の関係部局や島内で観光地域づくりに取り組む団体にアンケート調査を行った。その結果は下記の通り。

## アンケート回答者

|          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 大島       | 福岡県宗像市 産業振興部 商工観光課          |
| 高島       | 長崎県長崎市 高島町ブルーツーリズム推進協議会     |
| 壱岐       | 長崎県壱岐市 企画振興部 観光商工課 観光しまづくり班 |
| 玄海諸島(唐津) | 佐賀県唐津市 観光文化スポーツ部 観光課 観光企画   |
| 姫島       | 大分県国東郡姫島町 水産・商工観光課          |

## アンケート結果

## Q) 来島される訪問者の旅のスタイル

|         | 大島  | 高島    | 壱岐  | 玄海諸島<br>(唐津) | 姫島 |
|---------|-----|-------|-----|--------------|----|
| 団体旅行客   | 15% | データなし | 30% | データなし        |    |
| 家族旅行客   | 30% |       | 10% |              |    |
| 個人旅行客   | 25% |       | 30% |              |    |
| 研修旅行等   | 0%  |       | 10% |              |    |
| ビジネス等   | 10% |       | 15% |              |    |
| その他、帰省等 | 20% |       | 5%  |              |    |

## Q) 島内の移動手段

|                  | 大島                                       | 高島                                   | 壱岐    | 玄海諸島<br>(唐津) | 姫島                               |
|------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|-------|--------------|----------------------------------|
| レンタカー            | 0                                        | 0                                    | 160台  | 0            | 0                                |
| レンタル自転車<br>(バイク) | 17台                                      | 5台                                   | 50台   | 0            | 40台                              |
| 観光用遊覧バス          | 1台                                       | 0                                    | 10台   | 0            | 0                                |
| 観光用タクシー          | 1台                                       | 0                                    | 50台   | 0            | 0                                |
| その他              | 島内無料観光バスの運行(4~11月の土・日・祝日と夏休み期間は毎日6~7便/日) | コミュニティバス(島内各地から港間を運航)が定期船に併せて運航している。 | (記入無) | 自家用車のみ       | 拍子水温泉送迎バスがあり、村民でも観光客でも無料で送迎している。 |

## Q)リポート率

| 大島  | 高島  | 壱岐  | 玄海諸島<br>(唐津) | 姫島 |
|-----|-----|-----|--------------|----|
| 60% | 31% | 30% | データなし        |    |

## ・離島観光における課題と対策

|                        | 課題                              | 対応策                                                                                                                                                      |
|------------------------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大島                     | 食事の提供                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大島港ターミナルでお弁当販売を企画し、地元民宿と協議し販売している。</li> <li>・大島港ターミナル2Fでの飲食店誘致。</li> <li>・じのしま漁師食堂を企画し、地元民宿と協議を行っている。</li> </ul> |
| 高島                     | 人材の育成                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に研修会を開催するが、出席者が少ない。よって解決に至らない＝育成に繋がらない。</li> <li>・シンポジウム等に参加しているが継続的な情報交換等の基盤を創造できない。</li> </ul>              |
|                        | 名物料理の開発                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家が無く農地もないため、通年提供する地産地消の名物料理の開発が困難。</li> <li>・飲食できる店舗が昨年度から40%減少。現在島内には3店舗のみ。</li> </ul>                         |
| 課題は現時点では、いずれも解決できていない。 |                                 |                                                                                                                                                          |
| 壱岐                     | 二次交通                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス会社と行政等で協議会の場を設けるも、解決策が見い出せない。地域活性化グループによる温泉地区での送迎事業を実施している。</li> </ul>                                         |
|                        | 船の運賃                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・航路対策協議会、全国離島振興協議会等で、JR並みの運賃にならないものか要望を出している。</li> </ul>                                                          |
| 玄海諸島<br>(唐津)           | お客様が自由に時間を過ごす場所がない              | 対応は今のところ不十分であるため、交流イベント等を継続して定期的に行うことで島民の意識向上と、島の認知度を上げる取組みを行っている。                                                                                       |
|                        | お客様がお金を落とす場所がない(観光客が来ても島が儲からない) |                                                                                                                                                          |
|                        | 漁師(海士)が多く、よそ者(特に密漁等)に対して警戒心が強い  |                                                                                                                                                          |
|                        | 台風等の天候により、島へ渡る手段がなくなる           |                                                                                                                                                          |
|                        | 島の認知度が低い                        |                                                                                                                                                          |
|                        | 急病などの緊急時の不安                     |                                                                                                                                                          |
| 姫島                     | 島内での移動手段                        | レンタサイクルや拍子水の無料送迎バスを利用してもらっている。                                                                                                                           |

## ・観光地域づくりの取組み

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大島           | <ul style="list-style-type: none"> <li>島の活性化、地域振興の実現を図るため、地元島民を中心とした「島づくり協議会」を設立。島の観光資源を活かしたイベント等を継続的に企画・実施し、観光交流人口の増加による賑わいの創出を図っている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 高島           | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度に地域おこし協力隊が入ったが、島に定住しなかっただけでなく、その意思もなかった。<br/>ブルー・ツーリズム団体「高島町ブルーツーリズム促進協議会」およびその下部組織である「やったろうde高島」等の協議会を立ち上げ、官民協働した取組みに着手している。</li> <li>平成26年度都市農村共生・対流総合対策交付金の「農」を活用した医療・福祉との連携という取組で採択を受け、医療福祉の限界を「農」で超える挑戦を実践中。</li> </ul> <p>具体的には・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリを行いながら住み続けられる島を目指し、「福祉農園の創造」「医療福祉の連携構築」を行い健康寿命を伸ばす取組に着手中。遅速ではあるが成果を出している。</li> <li>順調に交流人口を増やしているシュノーケリングを定着させる為に「シュノーケリングピクニック」を商標登録する申請を行った。英語と中国語のホームページを作成し海外に情報発信できるベースを構築した。</li> <li>世界近代化遺産候補「軍艦島」に最も近い有人島という立地条件を活用し、オフ期の商品開発を行った。</li> </ul> |
| 壱岐           | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域おこし協力隊による、着地型観光商品づくりを行っている。</li> <li>体験メニューを造成し、旅行商品に組み込むことで、滞在型観光の構築を目指している。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 玄海諸島<br>(唐津) | <ul style="list-style-type: none"> <li>各島で定期的に交流イベントを行っている。イベント内容がマンネリ化しがちなため、テーマを持って取り組みたいと思っている。</li> <li>「からつ七つの島活性化協議会」を立ち上げ、各島と連携し「七つの島」として特産市を行ったり、相互に情報交換や足りない部分等をカバーしつつ、積極的なPRや総合的な活性化を試みている。</li> <li>七つの島活性化、島おこしをミッションとして「地域おこし協力隊」が島のコミュニティに入り活動をしている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 姫島           | <ul style="list-style-type: none"> <li>島の「たから」づくり推進協議会を立ち上げ、瞬間冷凍機を購入し、車えびや鮮魚の瞬間冷凍、それを活用して加工品作り等を作り出すよう取組んでいる。</li> <li>旅館や飲食店の女将らで女将の会を結成し、色々なイベント等に出向き姫島をPRしている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

アンケートから、各島内がそれぞれの地域資源を活用した観光に取組む現状がわかるが、課題として 交通アクセス(島へのアクセス方法・運賃)、島内アクセス、食や宿の不足、人材の不足、認知度の低さ(PR不足)といった共通の課題が見えてくる。

### 3. 調査まとめ

本調査を行う過程において、まず課題だと思われた事は、各自治体(もしくは島内での観光地域づくり実践者)が観光動向における調査データを持っておらずマーケティングに即した戦略を立てられているケースが少ない、という点である。

いずれの島も従来、農業・漁業を生業としており、観光産業に特化してきたわけではないが、今後の地域活性の活路を観光に見出そうとしている地域ばかりである。その為には、観光客の動向や志向、及び経済に及ぼす効果等のデータを把握し、現状の課題の分析を行った上で中長期での戦略を立てPDCAサイクルを回していかなければ、指標が定まらず途中で頓挫してしまう可能性もある。

離島という立地条件から、島にアクセスする船・飛行機の乗客数は制限されており、必然的に入島数に限りがある。また島内にある宿泊施設も、その島の状況によりある程度は限られてくる。

今回の調査でヒアリングを行った小値賀島や、甑島、屋久島の担当者からは、「来島者の数ではなく、観光プログラムやもてなしの質を高めて収益を上げていきたい」という話を聞くことができた。観光入込客数ばかりに目が向けられるが、その地域においての指標は、観光消費金額なのか、観光における地域への波及効果(特に、他産業への効果)なのか、また観光客の満足度(リピート率、紹介率)なのか、また最終的な観光地域づくりにおけるゴールイメージは何なのか、という点において、島内で観光に携わる関係者や住民とも共有し、共通認識を持って取組まなければ、持続可能な観光地域づくりへと繋げていくことは出来ない。

今回の調査結果から見てきた、離島における観光振興策のポイントは下記の3点と言える。

**島内で観光地域づくりを実践するリーダーや若者等の人材が存在するか  
行政や観光協会、地域内実践者をコーディネートする中間支援組織が存在するか  
観光を他の産業(特に農業・漁業)と連携させ、経済的效果を地域内に波及させる  
取組となっているか**

に関しては、小値賀島の「おぢかアイランドツーリズム協会」高砂氏、対馬の(一社)MITの川口氏、甑島の民間企業や地域おこし協力隊の事例からも見られる通りである。

に関しては、小値賀島の「おぢかアイランドツーリズム協会」の取組みが観光プラットフォームとして機能している好事例であり、行政や地域との連携という視点では、薩摩川内市の取組みが参考になる。

に関しては、小値賀島では漁業従事者と連携した民泊事業の取組みを推進しており、対馬でもグリーン・ブルーツーリズムの事務局機能を(一社)MITが検討し始めたり、黒島や屋久島でも島内のコミュニティビジネス化に向けての動きに取組み始めている。

### 第3章 奄美への交通アクセスの現状調査

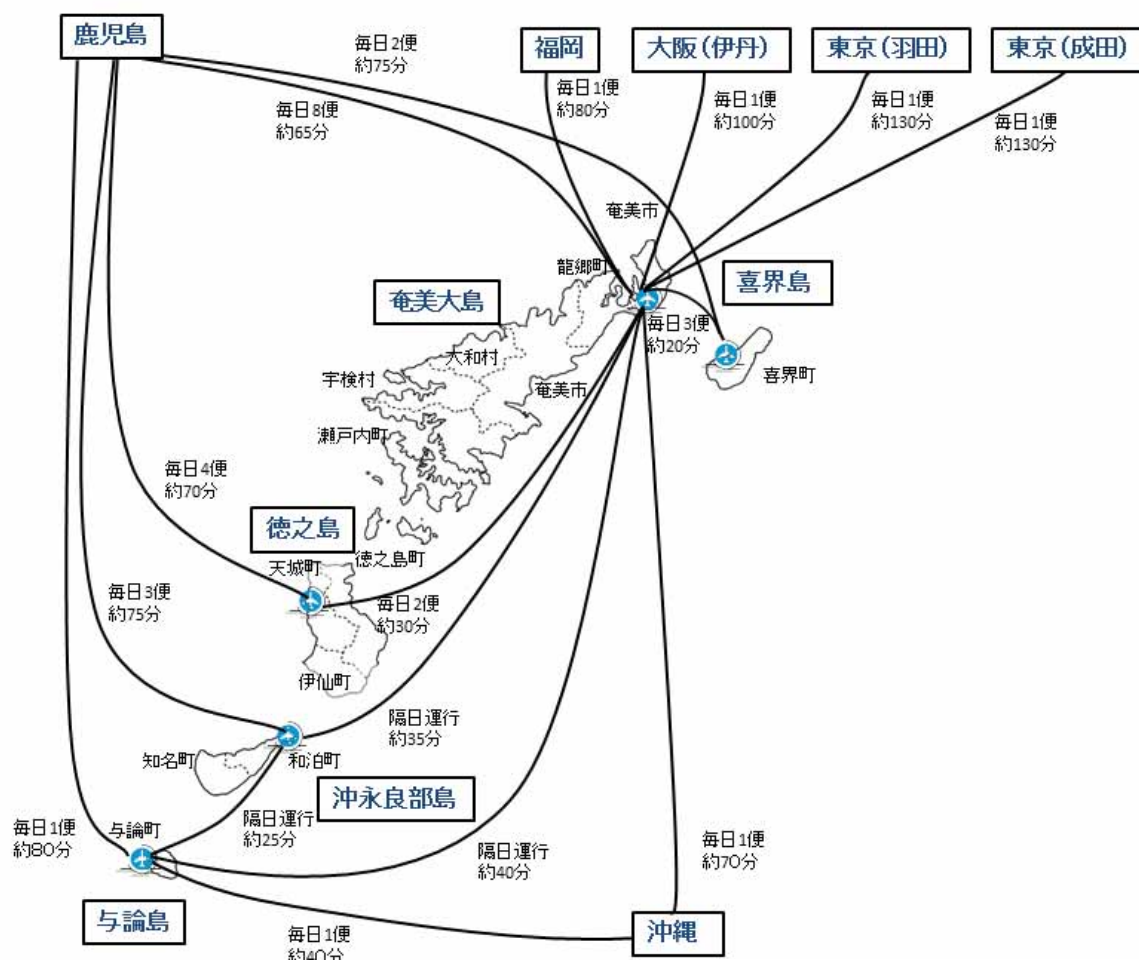
## 1. 調查報告

平成26年7月、格安航空会社バニラ・エアが成田～奄美線を開設し着実に奄美への観光客数が増加しているが、これまでの奄美大島へのアクセス方法は、空路：羽田、伊丹、福岡、鹿児島からの直行便、海路：阪神～沖縄航路、鹿児島～沖縄航路、鹿児島～喜界・知名航路であった。

奄美群島の空路と海路内容について、奄美市及び、一般社団法人奄美群島観光物産協会にヒアリング調査を行った結果を下記にまとめる。

データは主に、(一社)社団法人奄美群島観光物産協会より提供されたもので、その他、奄美市にて提供されたものを活用する。

### (1) 奄美群島への空路アクセス



出典：鹿児島県「H25 奄美群島の概況」

| 路線          | 運航会社          | 座席数        | 平成23年度<br>乗客数 | 平成24年度<br>乗客数 |
|-------------|---------------|------------|---------------|---------------|
| 奄美大島～鹿児島    | 日本エアコミューター    | 74<br>36   | 245,757       | 228,686       |
| 奄美大島～福岡     | 日本エアコミューター    | 74         | 27,016        | 30,711        |
| 奄美大島～東京(羽田) | 日本航空インターナショナル | 165        | 71,670        | 79,574        |
| 奄美大島～東京(成田) | パニラ・エア        | 180<br>166 | -             | -             |
| 奄美大島～大阪(伊丹) | JALエクスプレス     | 165        | 76,986        | 81,607        |
| 奄美大島～喜界島    | 日本エアコミューター    | 36         | 36,952        | 34,666        |
| 奄美大島～徳之島    | 日本エアコミューター    | 36         | 22,578        | 22,386        |
| 奄美大島～沖永良部島  | 日本エアコミューター    | 36         | 6,720         | 6,953         |
| 奄美大島～与論     | 日本エアコミューター    | 36         | 5,090         | 5,488         |
| 奄美大島～沖縄     | 琉球エアコミューター    | 39         | 15,161        | 15,356        |
| 喜界島～鹿児島     | 日本エアコミューター    | 36         | 31,528        | 31,351        |
| 徳之島～鹿児島     | 日本エアコミューター    | 74         | 121,413       | 121,107       |
| 沖永良部島～鹿児島   | 日本エアコミューター    | 76<br>36   | 66,368        | 66,721        |
| 沖永良部島～与論    | 日本エアコミューター    | 36         | 5,615         | 6,071         |
| 与論～鹿児島      | 日本エアコミューター    | 74         | 21,881        | 49,978        |
| 与論～沖縄       | 琉球エアコミューター    | 50         | 25,753        | 26,764        |

出典：鹿児島県「H25 奄美群島の概況」

昭和39年より、JAC(当時：東亜航空)が奄美大島～鹿児島線、奄美大島～喜界島・徳之島線の運航を開始し、平成26年で就航50周年を迎える。

東京(羽田、または大阪(伊丹))、福岡から奄美大島へは、毎日1便の直行便があるものの、その他の群島へは奄美大島を経由しての移動となる。鹿児島県からは、奄美大島の他、喜界島、徳之島、沖永良部、与論島への直行便を毎日1便運航している。

## ・他の都市部から奄美大島間のアクセス

| 路線          | 運航会社       | 所要時間        | 便数         |
|-------------|------------|-------------|------------|
| 東京（羽田）～奄美大島 | 日本航空       | 約2時間 35 分   | 1往復/日      |
| 東京（成田）～奄美大島 | バニラ・エア     | 約2時間 35 分   | 1往復/日      |
| 大阪（伊丹）～奄美大島 | 日本航空       | 約1時間 30 分   | 1往復/日      |
| 福岡～奄美大島     | 日本エアコミューター | 約 1 時間 20 分 | 2往復/日（ 1 ） |
| 鹿児島～奄美大島    | 日本エアコミューター | 約1時間        | 8往復/日      |
| 沖縄～奄美大島     | 琉球エアコミューター | 約1時間        | 1往復/日      |

（各航空会社HPを参照に作成）

1 福岡空港～奄美空港間を運航する便数は、冬季は1往復/日となる。

## ・奄美大島から奄美群島間のアクセス

| 路線         | 運航会社       | 所要時間   | 便数     |
|------------|------------|--------|--------|
| 奄美大島～喜界島   | 日本エアコミューター | 約 20 分 | 3 往復/日 |
| 奄美大島～徳之島   | 日本エアコミューター | 約 35 分 | 2 往復/日 |
| 奄美大島～沖永良部島 | 日本エアコミューター | 約 40 分 | 2 往復/日 |
| 奄美大島～与論島   | 日本エアコミューター | 約 45 分 | 2往復/日  |

（航空会社HPを参照に作成）

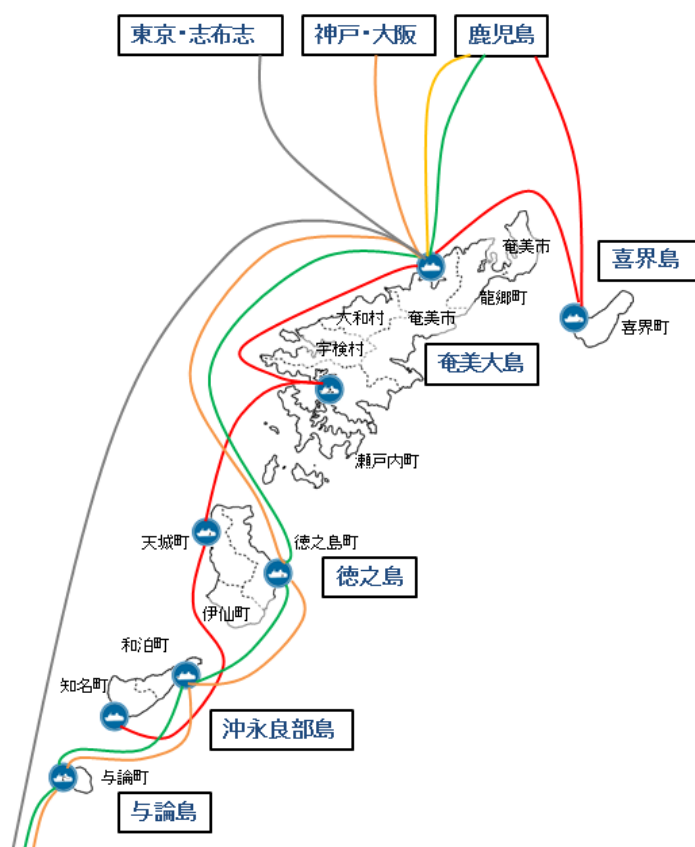
## ・鹿児島から奄美群島間のアクセス

| 路線        | 運航会社       | 所要時間        | 便数     |
|-----------|------------|-------------|--------|
| 鹿児島～奄美大島  | 日本エアコミューター | 約 1 時間      | 8 往復/日 |
| 鹿児島～喜界島   | 日本エアコミューター | 約 1 時間 15 分 | 2 往復/日 |
| 鹿児島～徳之島   | 日本エアコミューター | 約 1 時間 10 分 | 4 往復/日 |
| 鹿児島～沖永良部島 | 日本エアコミューター | 約1時間 15 分   | 3 往復/日 |
| 鹿児島～与論島   | 日本エアコミューター | 約 1 時間 10 分 | 1 往復/日 |

（航空会社HPを参照に作成）

## (2) 奄美群島の海路アクセス

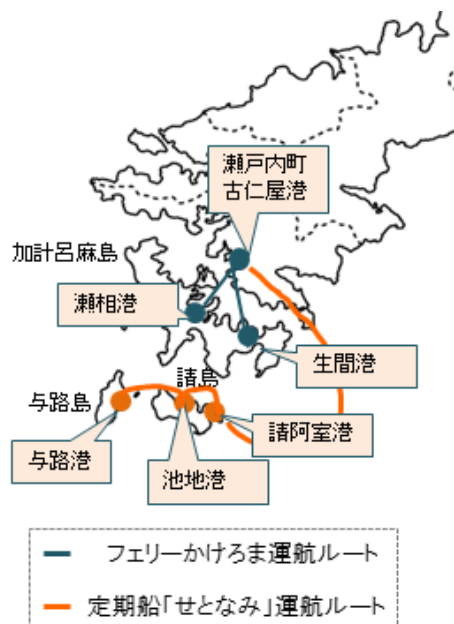
奄美大島に寄港する航路は、 阪神～沖縄航路、 鹿児島～沖縄航路、 鹿児島～喜界島～奄美大島～徳之島(または、沖永良部島)の喜界航路の3つである。



| 区分 | 航路                                       | 事業者      | 旅客定員       | 積載車両                             | 運航回数  |
|----|------------------------------------------|----------|------------|----------------------------------|-------|
|    | 鹿児島～名瀬(奄美)～亀徳(徳之島)～和泊～与論～本部～那覇           | マリックスライン | 470<br>452 | 大型43台、乗用車44台<br>大型27台、乗用車72台     | 15/月  |
|    |                                          | マルエーフェリー | 707<br>682 | トラック60台、乗用車80台<br>トラック50台、乗用車78台 | 15/月  |
|    | 鹿児島～湾(喜界)～名瀬(奄美)～古仁屋(瀬戸内)～平土野(天城)～知名(知名) | 奄美海運     | 243        | トラック18台、乗用車24台                   | 3/週   |
|    |                                          |          | 365        | トラック18台、乗用車24台                   | 2/週   |
|    | 神戸～大阪～名瀬(奄美)～亀徳(徳之島)～和泊～与論～那覇            | マルエーフェリー | 240        | トラック70台、乗用車100台                  | 1～2/週 |
|    | 東京～志布志～名瀬(奄美)～那覇                         | マルエーフェリー | 92         | トラック131台、乗用車89台                  | 1/週   |
|    | 鹿児島～(トカラ列島)～名瀬(奄美)                       | 十島村      | 200        | 乗用車7台、中トラック3台                    | 8/月   |

出典：鹿児島県「H25 奄美群島の概況」

### ・奄美大島から加計呂麻島、請島、与路島へのアクセス



フェリーかけろま 定期船「せとなみ」が運航しており、フェリーかけろまは、古仁屋(瀬戸内町)～瀬相(加計呂麻島)、古仁屋(瀬戸内町)～生間(加計呂麻島)の間を運航している。定期船「せとなみ」は、古仁屋(瀬戸内町)～請島～与路島間を運航している。

この他、着港する集落以外へ行く場合、海上タクシーも利用されている。

### ・奄美群島航路運賃軽減事業内容

平成26年7月より奄美群島振興交付金を活用し、奄美群島の島民を対象とした航路運賃の軽減事業が開始された。適用期間は、平成27年3月31日迄の予定。

| 対象者         | 奄美群島住民( 但し、離島航空割引カードの提示が必要) |                                                                                             |
|-------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対象路線        |                             | 運賃例                                                                                         |
| 鹿児島～奄美～沖縄航路 | 鹿児島～奄美群島各島間、<br>奄美群島各島間     | 鹿児島～名瀬間/島発往復運賃<br>(普通)17,530 円<br>(割引後)12,730 円<br>名瀬～和泊間/片道運賃<br>(普通)5,010 円<br>(割引後)4,410 |
| 鹿児島～喜界～知名航路 |                             |                                                                                             |

(平成26年7月時点。各航路事業者HPより作成)

### (3) バニラ・エア就航による効果について

バニラ・エアは、平成26年4月に入り創設された国と県が負担する総額約21億円の「奄美群島振興交付金」を活用し、平成26年7月1日から就航された。年間目標は、提供座席数:13万席、搭乗率80%の約10万人としている。

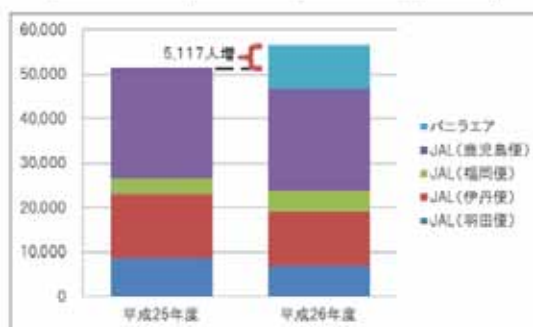
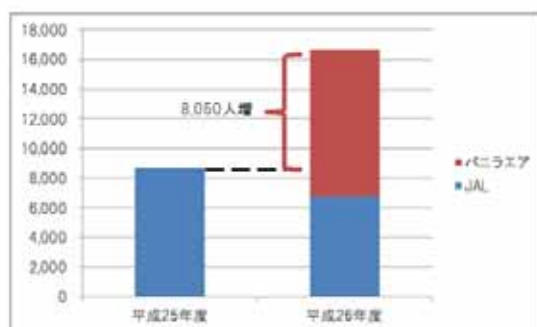
これまで、東京～奄美間を運航するのはJALの1社のみであったが、バニラ・エアの就航により、東京～奄美間の旅客数は増加傾向にある。羽田～奄美間を運航するJALの普通片道運賃51,800円に対し、バニラ・エアの片道運賃は5,500円～となり、若い世代を中心に潜在的な需要を喚起したと言える。

①東京直行便 乗客数比較

|       | 平成25年度 | 平成26年度 | 差      |
|-------|--------|--------|--------|
| JAL   | 8,650  | 6,790  | -1,860 |
| パニラエア | 0      | 9,910  | 9,910  |
| 合 計   | 8,650  | 16,700 | 8,050  |

②奄美大島との乗降客比較

|           | 8月     |        |        |
|-----------|--------|--------|--------|
|           | 平成25年度 | 平成26年度 | 差      |
| JAL(羽田便)  | 8,650  | 6,790  | -1,860 |
| JAL(伊丹便)  | 14,286 | 12,343 | -1,943 |
| JAL(福岡便)  | 3,540  | 4,882  | 1,342  |
| JAL(鹿児島便) | 25,070 | 22,738 | -2,332 |
| パニラエア     | 0      | 9,910  | 9,910  |
| 合 計       | 51,546 | 56,663 | 5,117  |



(JAL マンスリーレポート、パニラ・エア、広域提供資料より、奄美市にて作成)

平成26年8月のパニラ・エアによる経済波及効果について下記の通り考察できる。

## 1. 一人当たりの観光消費額の算出

一人当たりの観光消費額：72,000円

内訳 宿泊：23,458円(サービス)  
 交通：11,073円(運輸)  
 お土産：10,509円(商業)  
 飲食費：10,232円(サービス)  
 その他：16,727円(サービス)

●商業：10,509円  
 ●運輸：11,073円  
 ●サービス：50,418円

## 2. 経済波及効果の算出

●商業 ⇒ 10,509円 × 2,860人 = 30.06百万円  
 ●運輸 ⇒ 11,073円 × 2,860人 = 31.67百万円  
 ●サービス ⇒ 50,418円 × 2,860人 = 144.20百万円

## 3. 結果

直接効果(産業別生産額) 206百万円  
 1次波及効果(生産誘発額) 64百万円  
 2次波及効果(生産誘発額) 59百万円  
 合計 329百万円

上記「2. 経済波及効果の算出」においての対象人数(2,860名)の算出方法：交流人口増加数は(直行便の増加分—鹿児島減少分)÷2とする。乗降客数は一人であっても出入りで2カウントされるため、2で割ると交流人口となる。直行便の増加分は の東京直行便乗客数から導き出し、(8,050人—2,332人)÷2=2,859 2,860名とした。

## (4) JALグループの動向

JALグループは、昭和39年(当時:東亜航空)より、奄美大島～鹿児島線、奄美大島～喜界島・徳之島線を運航し、平成26年に運航開始50周年を迎えた。

平成26年7月から奄美群島振興交付金を活用した航空運賃軽減事業で、鹿児島～奄美群島間路線、奄美群島内路線は離島割引カードを所持する群島民に対し、割引率が普通運賃に比べ52%となった。群島外住民も群島内路線を利用する際に往復割引運賃が同28%引き下げられた。

さらに10月の冬ダイヤからは、「奄美群島交流需要喚起対策特別事業」の補助金を活用し、県外路線に関しても値下げを実施。羽田～奄美大島線は約2割から4割の値下げとなり、早期購入の割引運賃は、16,300円と通常の料金の約68.5%安くなる。

| 発着          | 旅客数      |
|-------------|----------|
| 羽田 - 奄美大島   | 6,790 人  |
| 伊丹 - 奄美大島   | 12,343 人 |
| 福岡 - 奄美大島   | 4,882 人  |
| 那覇 - 与論     | 4,324 人  |
| 那覇 - 奄美大島   | 1,477 人  |
| 鹿児島 - 喜界島   | 3,313 人  |
| 鹿児島 - 奄美大島  | 22,738 人 |
| 鹿児島 - 徳之島   | 13,679 人 |
| 鹿児島 - 沖永良部  | 8,299 人  |
| 鹿児島 - 与論    | 3,120 人  |
| 奄美大島 - 喜界島  | 4,288 人  |
| 奄美大島 - 徳之島  | 2,542 人  |
| 奄美大島 - 沖永良部 | 633 人    |
| 奄美大島 - 与論   | 577 人    |
| 沖永良部 - 与論   | 569 人    |
| 合計          | 89,574 人 |

JAL2014 年 8 月

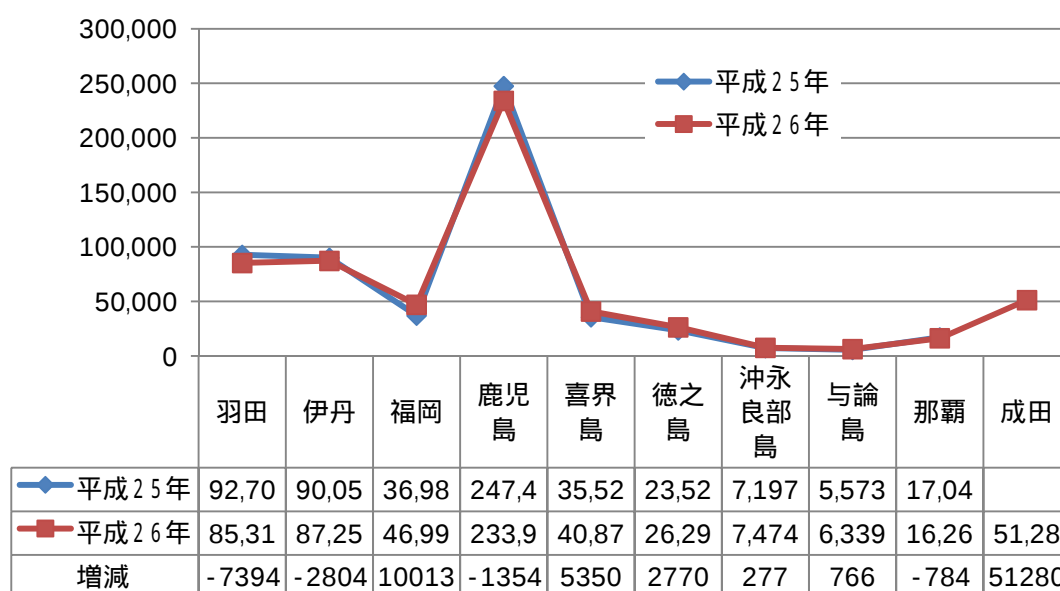
国内線旅客方面別輸送実績資料より


**群島間の移動**

上グラフ中、赤線で囲った部分が群島内間の移動に関する数値であり、観光客の群島間輸送はもちろん、群島内の島民の足としての役割を担っていることがわかる。

### ・奄美空港乗降数の推移

下のグラフは、奄美空港の定期便乗降数について、平成25年と平成26年を比較したものである。パニラ・エアの就航で羽田空港間の乗降数は微減となっているが、それ以上に成田間の乗降数が多いことがわかる。それ以外の地域では、福岡便、群島間の便が増加している。



(奄美市提供資料より作成)

## 2. まとめ

奄美群島への交通アクセスの現状としては、空路、海路であるが、空路に関しては、本年度よりLCC(パニラ・エア)が参入し、従来の羽田～奄美間を運航していたJALの搭乗者数が大幅に減少するかの思われていたが、航空運賃軽減事業の活用等により、早期割引率を引き上げる等により、乗降者数は前年度より減少したものの、わずか8%減に留まった。

また群島間の移動に関しては、奄美空港もしくは名瀬港から各群島へ空路、海路が繋がっており、群島間の周遊も可能であるため、広域での観光施策に取り組むことのできる環境となっている。

## 第4章 奄美大島における観光振興策の検討

### 1. 現状把握

まず、奄美大島における観光振興策を検討するにあたり、奄美大島及び奄美群島の観光の現況について調査を行った。奄美大島における観光地域づくりの取組みについては、奄美市、龍郷町、大和村、宇検村、瀬戸内町の観光部局担当者へヒアリングを実施。また奄美群島の観光状況については、(一社)奄美群島物産観光協会へヒアリングを行うことで現状把握を行った。

#### (1) 奄美群島の概要

奄美群島は、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島等、有人8島から成り、1市7町2村の12の行政組織がある。

| 島名    | 区分    | 市町村名        | 面積(k m <sup>2</sup> ) | 人口       |
|-------|-------|-------------|-----------------------|----------|
| 大島本島  | 奄美大島  | 奄美市         | 812.60                | 64,741 人 |
|       | 加計呂麻島 | 大和村         |                       |          |
|       | 請島    | 宇検村         |                       |          |
|       | 与論島   | 瀬戸内町<br>龍郷町 |                       |          |
| 喜界島   |       | 喜界町         | 56.93                 | 7,802 人  |
| 徳之島   |       | 徳之島町        | 247.77                | 25,292 人 |
| 沖永良部島 |       | 和泊町<br>知名町  | 93.67                 | 13,637 人 |
| 与論島   |       | 与論町         | 20.47                 | 5,436 人  |

(資料提供：(一社)奄美群島観光物産協会、人口：住民基本台帳人口(平成25年3月)

面積：農林水産省・面積調査(平成24年7月)より作成)

奄美群島内の総人口数は、116,908名であり、主な産業は、徳之島と与論島は漁業が中心であるが、それ以外の島は肉用牛、さとうきび、果樹を主体とした農業が主である。

## (2) 観光の現況

奄美群島内の観光現況について、平成25年までのデータを基に下記の通り整理する。

「入込」とは、奄美群島外から群島内に入ってきた人数及び奄美群島内において各島間を移動した人数の合算。

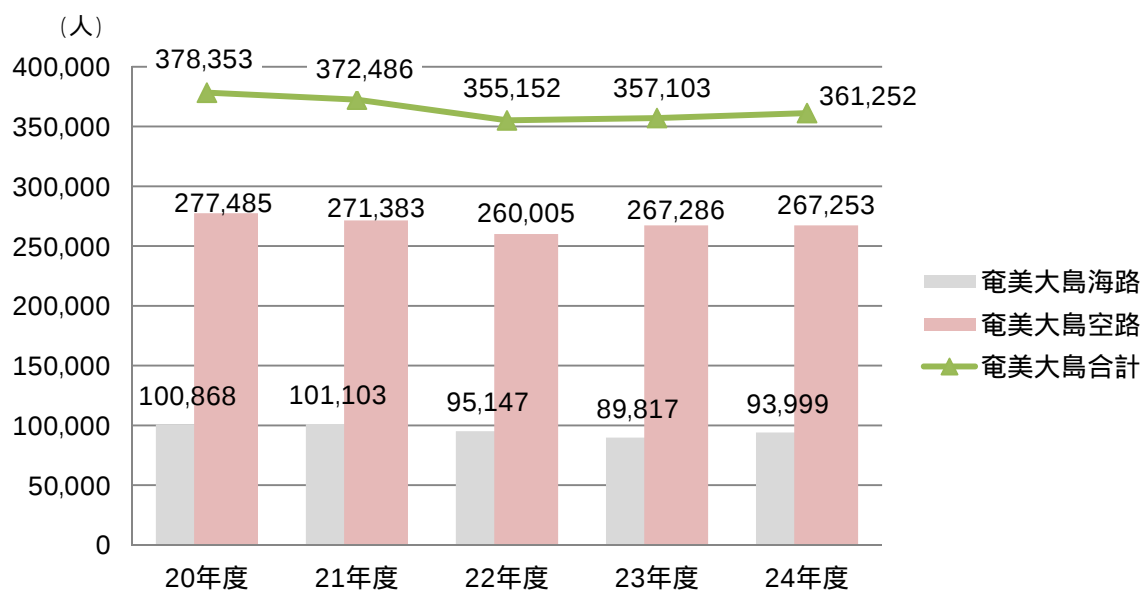
「入域」とは、奄美群島外から奄美群島域へ入ってきた人数。入込客数 = 群島外からの移動(入域客数) + 群島内の移動としている。(鹿児島県HPより)

### 群島内入込客・入域客数状況

|       | 21年     | 22年     | 23年     | 24年     | 25年     |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 入込客   | 690,560 | 666,451 | 672,600 | 672,540 | 686,270 |
| 奄美大島  | 372,486 | 355,152 | 357,103 | 361,252 | 370,360 |
| 喜界島   | 56,443  | 54,152  | 54,733  | 51,830  | 51,762  |
| 徳之島   | 125,316 | 125,288 | 127,290 | 125,110 | 126,345 |
| 沖永良部島 | 79,726  | 78,065  | 80,167  | 80,732  | 81,334  |
| 与論島   | 56,589  | 53,794  | 53,307  | 53,616  | 56,469  |
| 入域客   | 499,221 | 485,319 | 488,240 | 492,616 | 504,739 |
| 奄美大島  | 294,975 | 282,635 | 282,895 | 289,365 | 298,121 |
| 喜界島   | 26,168  | 25,301  | 24,901  | 24,405  | 24,152  |
| 徳之島   | 82,565  | 83,498  | 85,960  | 84,445  | 84,939  |
| 沖永良部島 | 51,368  | 52,589  | 55,043  | 55,065  | 55,255  |
| 与論島   | 44,145  | 41,296  | 39,441  | 39,336  | 42,272  |
| 群島内移動 | 191,339 | 181,132 | 184,360 | 179,924 | 181,531 |
| 奄美大島  | 77,511  | 72,517  | 74,208  | 71,887  | 72,239  |
| 喜界島   | 30,275  | 28,851  | 29,832  | 27,425  | 27,610  |
| 徳之島   | 42,751  | 41,790  | 41,330  | 40,665  | 41,406  |
| 沖永良部島 | 28,358  | 25,476  | 25,124  | 25,667  | 26,079  |
| 与論島   | 12,444  | 12,498  | 13,866  | 14,280  | 14,197  |

(資料：(一社)奄美群島観光物産協会提供)

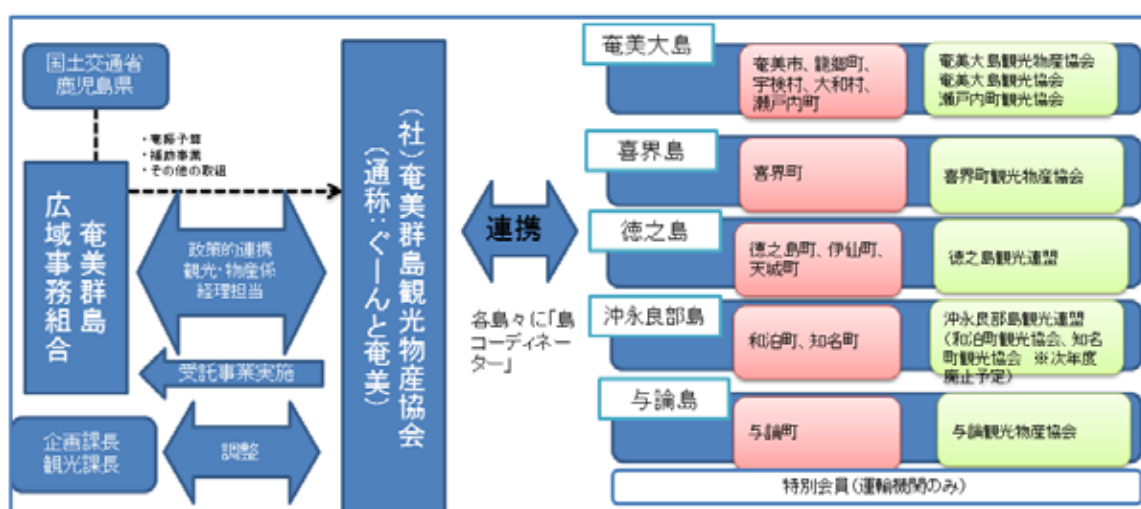
### 奄美大島における海空別入込客数の推移



((一社)奄美群島観光物産協会提供資料より作成)

## 奄美群島における観光地域づくりの取組

奄美群島における観光の組織形態は下図の通り。平成25年4月に、各島々にある観光協会を連携させ、一元管理して情報発信を行う組織として一般社団法人奄美群島観光物産協会（通称：ぐーんと奄美）が組織された。群島12市町村の負担金が基本財源とし、奄美群島広域事務組合の観光・物産に関連する事業を受託し運営している。



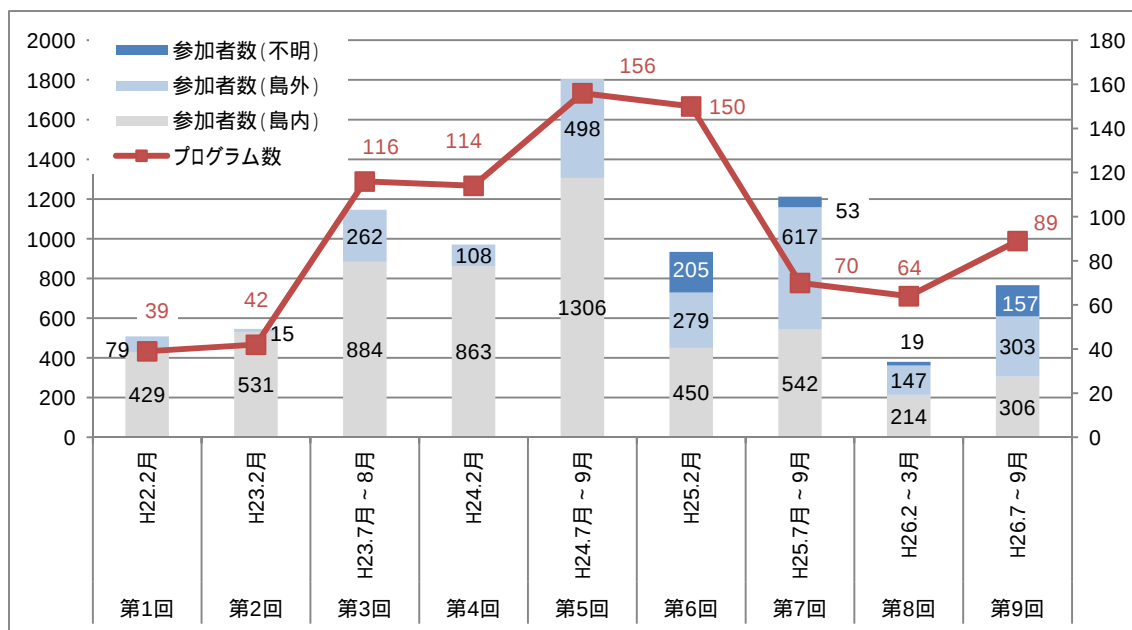
(資料提供：(一社) 奄美群島観光物産協会)

主な自主事業は、年2回開催している「あまみシマ博覧会」の開催と、「島コーディネーター」活動の2点である。

「島コーディネーター」は現在6名が認定され、住民とぐーんと奄美、島内の各観光協会・連盟、市町村との橋渡し役を担っている。島の情報発信も行いながら観光地域づくり実践者として期待されるが、そのほとんどが各町村の観光協会の所属となっており十分な活動ができていない。

また、「あまみシマ博覧会」は、平成21年度より、奄美市主体で地域資源を活かしたヘルスツーリズム(健康と癒しの体験型イベント)の推進を目的に始まった取組みで、平成22年2月に第1回が開催されて以降、毎年、夏と冬に開催されている。その後、平成24年度より、ぐーんと奄美が主催組織となり、奄美群島全域をフィールドにした取組みとなっている。地域の自然や歴史、文化を体験できるプログラムで構成されており、参加する群島内の住民は、その地域の魅力に気づき、愛着と誇りを醸成することができ、また島外者からの参加者は、その島独自の文化や暮らしを体感できるようになっている。

## ・あまみシマ博覧会実績



((一社)奄美群島観光物産協会提供資料より作成)

上のグラフは、あまみシマ博覧会のプログラム数、参加者内訳を示すものであるが、第5回の平成24年度夏からは、(一社)奄美群島観光物産協会が主催するようになり、全域への展開が強化され、プログラム数156、参加者合計1,804名と過去最高となった。以降、出展料の徴収や、プログラム内容のマンネリ化等により、プログラム数、参加者数ともに減少しているが、開催時期に併せ、JACの機内や島内の宿泊施設等にパンフレットを置く等してPRを続けており、徐々に島外者・県外者の参加数の割合も増えてきている。



(あまみシマ博覧会パンフレットより抜粋)

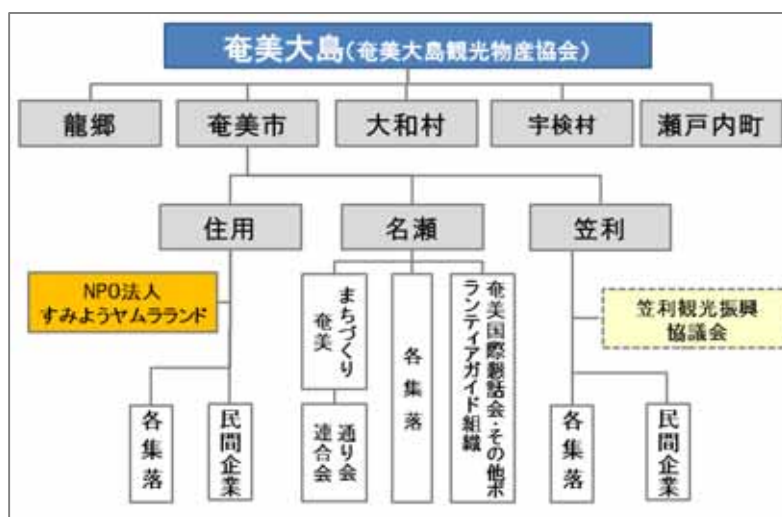
## 奄美大島内における観光地域づくりの取組

奄美大島は、奄美市・龍郷町・大和村・宇検村・瀬戸内町の1市2町2村からなり、それぞれの観光に係る組織形態は下記の通り。

|      | 市町村名 | 観光担当部署  | 関係機関     |            |          |                        |
|------|------|---------|----------|------------|----------|------------------------|
| 奄美大島 | 奄美市  | 名瀬総合支所  | 観光課      | 奄美大島観光物産協会 | 奄美大島観光協会 | 奄美群島観光物産協会<br>(ぐんもと奄美) |
|      |      | 笠利総合支所  | 産業振興課    |            |          |                        |
|      |      | 住用総合支所  | 産業建設課    |            |          |                        |
|      | 龍郷町  |         | 産業振興課    |            |          |                        |
|      | 大和村  |         | 産業振興課    |            |          |                        |
|      | 宇検村  |         | 総務企画課    |            |          |                        |
|      | 瀬戸内町 |         | まちづくり観光課 |            | 瀬戸内町観光協会 |                        |
| 喜界島  | 喜界町  | 企画課     | 喜界町観光協会  |            |          | 奄美群島観光物産協会<br>(ぐんもと奄美) |
| 徳之島  | 徳之島町 | 地域営業課   | 徳之島観光連盟  |            |          |                        |
|      | 伊仙町  | 企画課     |          |            |          |                        |
|      | 天城町  | 商工水産観光課 |          |            |          |                        |
| 沖永良部 | 和泊町  | 企画課     | 和泊町観光協会  | 沖永良部観光連盟   |          |                        |
|      | 知名町  | 企画振興課   | 知名町観光協会  |            |          |                        |
| 与論   | 与論町  | 商工観光課   | 与論町観光協会  |            |          |                        |

(資料提供: 奄美市)

奄美大島内には、主に大島紬や黒糖焼酎等の販売促進活動を担ってきた「奄美大島観光物産協会」と、民間観光事業者により組織される「奄美大島観光協会」の2つの組織がある。



奄美大島観光物産協会は、左図にあるように、島内の各町村と調整を行いながら受入体制の充実に向け取り組み始めている。各町村にある地域毎の組織と連携をして滞在交流型観光メニューの造成を行い、それらを(一社)奄美群島観光物産協会の島コーディネーター

が情報発信をしていくスキームを検討している。

また奄美大島観光協会においては、主に大型観光の誘致キャンペーンを行っており、年間を通して安定した誘客確保に努めている。

### ・奄美大島内の各市町村の取組み

奄美市、龍郷町、大和村、宇検村、瀬戸内町の観光関係部局へヒアリングを行った。その内容を下記にまとめる。

### ・観光地域づくりへの取組みについて

| 奄美市                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美市内の名瀬、住用、笠利を重点地域と捉え、各地域内に観光地域づくりを推進する組織を持ち展開したいと考えている。</li> <li>・住用町には、既に「NPO法人すみようヤムランド」が組織され、滞在交流型観光メニューの造成に取組んでいる。笠利町でも、「笠利観光振興協議会」の立ち上げを予定している。名瀬については、「まちづくり奄美(商店街)」を中心に、国際懇話会(通訳ボランティア)等との連携を検討している。</li> <li>・平成25年度より「地の地域おこし連携事業」において、大学生3名を半年間のインターンで受入、着地型観光商品づくりに取組んでいる。</li> </ul> |
| 龍郷町                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会議所の若手を中心に、民泊業ができないかを検討し始めている。</li> <li>・世界自然遺産の登録を視野に入れると、「自然観察の森」への来訪者が増えることが想定されるため、臨時職員を2名雇用し案内を強化している。</li> <li>・来年度を目途に観光振興計画を策定する予定で、現在、各集落の聞き取り調査を行っている段階である。</li> </ul>                                                                                                                |
| 大和村                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・国直(くになお)集落では、個人で滞在交流プログラムの造成やボランティアガイドのような事を行っている人が出始めた。行政も連携をしながら「まち歩きツアー」等の商品づくりをしていきたいと考えている。</li> <li>・湯湾岳、奄美フォレストポリス等の観光拠点と成り得る資源も多い。現在、主に史跡等の調査を行っており、それらを観光に結び付けられないか検討していきたい。</li> </ul>                                                                                                  |
| 宇検村                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・湯湾岳、海水浴場等があり、海底遺跡調査では、12～3世紀の遺跡が発見され、交易船の遺跡だといわれている。</li> <li>・地元の野菜を販売する直売所「うけん市場」が平成23年に開設され、宇検村の観光物産協会が運営している。</li> </ul>                                                                                                                                                                      |

| 瀬戸内町                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内町観光物産協会が拠点としてある。シマ案内人(認定35名、常時稼働者約10名)の強化に取り組んでいる。</li> <li>・加計呂麻島には、民泊協議会があり、加入件数は15軒程あり、今後は修学旅行生の受入も検討している。</li> <li>・国指定の需要無形民俗文化財に指定されている集落の祭り「諸鈍シバヤ」には観光客も多く来るようになり、青年会や婦人会が受入体制づくりに取り組んでいる。</li> </ul> |

### ・離島観光における課題とその対応策について

|      | 課題                                  | 対応策                                                                        |
|------|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 奄美大島 | 大型観光の増加による観光バスの不足、並びに宿泊所の不足         | 検討中                                                                        |
|      | 個人旅行者の増加によるレンタカーの不足、並びに宿泊所の不足       |                                                                            |
|      | 路線バスの利便性が悪く、観光客対応が出来ていない            | 観光バスや観光タクシーの検討。                                                            |
| 龍郷町  | 着地型旅行商品などの観光メニューの拡充・新たな地域資源の発掘      | 奄美群島一体となって「あまみシマ博覧会」を開催しているが、今後各市町村の各集落における新たな地域資源の発掘に取り組む必要がある。           |
|      | 地域の観光資源を紹介・PRできる人材の育成               | しまコンシェルジュ育成講座を開催し、島の案内人育成に取り組んでいるが、今後は、それぞれの地域で、その地域に特化した人材の育成を図っていく必要がある。 |
|      | 観光業者のみならず他産業・地域住民一体となった観光への取組・意識の醸成 | 今後、島内各市町村の観光担当者並びに、観光業者等との連携を図っていく。                                        |
| 大和村  | 受入体制(村内宿泊施設の不足)                     | 奄美市内の宿泊施設の情報提供。                                                            |
| 宇検村  | (無記入)                               |                                                                            |
| 瀬戸内町 | 宿泊施設の老朽化                            | 改築等に関する資金借入れの情報提供。                                                         |
|      | 宿泊施設の後継者不足                          | 観光PRを行い、交流人口を増やし収入増を図る。                                                    |

## 2. 課題の整理

奄美群島の観光の現況については前頁に記載した通りであるが、今後、奄美群島において観光地域づくりにおける課題は、奄美群島全域で見た場合の「群島を一元管理する機能と群島間連携の不足」、各島内で見た場合の「各島内(市町村内)において、集落単位で観光地域づくりを推進する人材・組織の不在」と、その集落単位での活動を「各島内(市町村)単位で管理する組織の不在」が挙げられる。それぞれの課題について下記の通り整理する。

### 課題1 群島全域を一元管理する機能と、群島間との連携不足

群島を一元管理する組織として、奄美群島広域事務組合、(一社)奄美群島観光物産協会がある。観光地域づくりの側面においては、(一社)奄美群島観光物産協会が担っているが、群島全域のプロモーション活動が主な事業となっており、観光プラットフォームとして、観光客に対するワンストップの窓口機能、マーケティングや情報発信機能、行政や旅行業者、メディア関係者等とのマネジメント機能、島内の住民(ガイド、観光従事者等)への人材育成機能等は未だ成されていない状況である。また群島間の連携はむろん、各群島内での体制づくりや取組みも行い始めた段階である。

### 課題2 各島内において、集落単位で観光地域づくりを推進する人材・組織の不在

各島内を集落単位で見た場合、その集落内に観光地域づくりを推進する人材や組織が十分ではない。奄美大島内の奄美市住用町にあるNPO法人すみようヤムランドのような存在が各集落単位で必要。奄美市笠利町では、笠利観光推進協議会の立上げが議論されており、このような動きが各島内の集落単位で形成していくべきである。

### 課題3 各島内の市町村単位で一元管理する組織・機能の不在

課題2で挙げた集落単位での組織を、島単位で一元管理する組織が必要となる。奄美大島では、奄美大島観光協会がその役割を担おうと協議し始めている。他の島においても、各島の観光協会・連盟が、その島の観光プラットフォームとしての役割を担える組織づくり、機能強化が必要である。

### 3. 観光振興策の検討

奄美群島は、行政区分では鹿児島県に存在するものの、その歴史的背景から琉球王朝文化も色濃く残す独特な風土を持ち合わせている。まだ全国的な認知度は低く、鹿児島県でも沖縄県でもない、奄美群島としての認知度を高め、そのブランド力を高めていく必要がある。

そのため、群島全体が一丸となった取組みを推進ながら群島連携を強化し、観光客を各島へ周遊させることで奄美群島全体の活性化に取り組むことが重要である。

奄美大島の奄美市に集中している観光客をどのように群島へ周遊させていくのか、という点においては各島の今後の努力が一層必要であるが、まずは奄美大島島内においても、奄美市の中心部である名瀬に集中している観光客を他の各市町村との連携で島内周遊できる仕組みをつくり、その仕組みを群島へと展開させることを検討したい。

## 第5章 収集した観光振興策の発表

### 1. シンポジウムの開催

本事業で収集した九州管内の離島における観光振興策の取組事例や、奄美群島の現状・課題を分析し離島振興策を検討するシンポジウムを奄美市にて開催した。

シンポジウムは3部構成とし、第1部は収集した調査結果の発表、第2部は九州圏内で観光地域づくりに取組む実践者による事例発表の他、観光地域づくり実践者によるパネルディスカッションの開催、第3部は「奄美群島の首長サミット」とし、大都市圏からの誘客を担う航空会社と奄美群島内の各首長によるパネルディスカッションを実施。さらにシンポジウム後半には、奄美群島の観光振興に向けた共同宣言を行った。また翌日はエクスカーションを実施し、島外から参加された方々に対して奄美市で取組んでいる観光地域づくりの現場を視察するツアーを実施した。

#### シンポジウム開催の狙い

本シンポジウム開催にあたって、大きく2つの狙いを設けることとした。

1つ目は、第1部・第2部と、従来の観光とは異なる「観光地域づくり」の事例や実践者の取組を報告することで、参加者自身が自分たちの住む地域へ目を向け、観光業に携わる人たちだけでなく、住民主体となった取組へと繋げることを狙いとした。

2つ目は、第3部の「奄美群島の首長サミット」と、「奄美群島の観光振興に向けた共同宣言」の実施である。今後、奄美群島において、観光振興に取組むに当たり、群島全域での連携は不可欠である。そのため、奄美大島島内の連携もさることながら、群島が一丸となった取組として内外へ発信することを狙いとした。

#### シンポジウムの概要

| 名称    | 九州離島観光地域づくりシンポジウム in 奄美群島                                                                                                                                                                                                                             |    |                       |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------|
| 開催日時  | 平成26年 11月13日(火)<br>開 会/15:40～ 閉 会/18:50<br>交流会/19:00～21:00                                                                                                                                                                                            | 会場 | あまかん4階<br>奄美市名瀬港町2-10 |
| プログラム | <b>主催者挨拶</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省九州運輸局 次長/久保田秀夫</li> <li>・国土交通省九州地方整備局 副局長/大野正人</li> </ul> <b>第1部 平成26年度九州運輸局事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「離島の観光振興策に係る調査」報告発表</li> <li>・(株)マインドシェア 九州のムラ編集長/養父信夫</li> </ul> |    |                       |

## 第2部 九州離島観光フォーラム

「島の観光を担う人材・組織育成」

### < 事例発表 >

- ・対馬 一般社団法人MIT専務理事/川口幹子氏
- ・甑島 甑観光コーディネーター/斉藤純子氏
- ・奄美群島 一般社団法人奄美群島観光物産協会統括リーダー  
/松元英雄氏

### < パネルディスカッション >

モデレーター (株)マインドシェア 九州のムラ編集長  
/養父信夫

### 登壇者

- ・国土交通省九州運輸局企画観光部長/榎本通也
- ・離島経済新聞 編集長/鯨本あつこ氏
- ・一般社団法人MIT専務理事/川口幹子氏
- ・NPO法人すみようヤムランド理事長/和田美智子氏

## 奄美ナンバーの紹介

- ・国土交通省九州運輸局鹿児島運輸支局  
奄美自動車検査登録事務所 所長/南原規久男

## 第3部 奄美群島首長サミット

「奄美群島の広域連携による観光魅力発信」

### < 奄美群島観光フォーラム >

モデレーター (株)マインドシェア  
観光地域づくりプロデューサー/坂元英俊

### 登壇者

- ・鹿児島県大島支庁長/本重人氏
- ・日本航空株式会社 執行役員  
路線統括本部国内路線事業本部長/西尾忠男氏
- ・ANAホールディングス株式会社  
上席執行役員アジア戦略部長/芝田浩二氏
- ・奄美群島各島代表首長  
(奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島)

|                             |                                                                                                                 |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                             | <p><b>奄美群島の観光振興に向けた共同宣言</b></p> <p>奄美群島広域事務組合管理者/朝山毅氏</p> <p><b>閉会</b></p> <p>交流会「シマ料理でおもてなし」(会場：あまかん3F)</p>    |
| <b>エクスカーション(翌、11月14日実施)</b> |                                                                                                                 |
| <b>半日コース</b>                | <p><b>森と水のまち住用エクスカーション半日ツアー</b></p> <p>【内容】世界自然遺産候補となる豊かな自然体験とそこで暮らす人々の集落散策を通して、奄美の魅力を満喫する。</p> <p>【参加者】22名</p> |
| <b>1日コース</b>                | <p><b>森と水のまち住用エクスカーション1日ツアー</b></p> <p>【内容】豊かな自然「静」と伝統文化「動」を有する住用の魅力をまるごと体験する。</p> <p>【参加者】8名</p>               |
| <b>参加人数</b>                 | <p>参加者                      約200名</p> <p>アンケート回収数        64名</p>                                                |



## 2. 各プログラム内容

### 第1部 平成26年度九州運輸局事業「離島の観光振興策に係る調査」報告発表

< (株)マインドシェア 九州のムラ編集長/養父信夫 >

本調査事業の目的、事業概要を説明した後、調査を行った九州圏内の離島における観光振興策の取組事例について報告を行った。調査を行った結果、課題として イベント的な取組に終始しており、コミュニティビジネス化に繋がっていないこと、観光地域づくりを推進する人材・組織の不在、という点が考えられたことから、提言として、地域づくり型観光への移行、地域づくりプラットフォーム&観光地域づくりマネージャーの育成、携わる人々の共通する目的(目標)の明文化が必要な事を挙げ、観光地域づくりを推進する上で参考になる推進組織・人材の事例紹介を行った。

< 事例紹介 >

観光地域づくり組織……………小値賀島、対馬、甑島の取組み

人材(観光地域づくりマネージャー)…富田由香子氏< (公財)佐世保観光コンベンション協会 >

……………小村秀蔵氏< やったろう de 高島 >



### 第2部 九州離島観光フォーラム「島の観光を担う人材・組織育成」

第1部を受け、テーマを「島の観光を担う人材と組織育成」とし、各離島で観光地域づくりに取り組んでいる実践者から、それぞれの離島の状況等について事例を紹介して頂いた。

#### 【事例 対馬】一般社団法人MIT 専務理事/主任研究員 川口幹子氏

地域おこし協力隊(対馬では「島おこし協力隊」)として移住した川口氏が、対馬の志多留(したる)地区という限界集落を選び、島おこし協力隊として活動してきた経緯と、任期終了後も仲間たちと定住を決め、現在どのように民間組織として活動しているのかを紹介して頂いた。川口氏が対馬市と連携をして取り組んできた「島おこし実践塾」では、対馬の自然・資源を「学び」の教材として商品化し、都市部から学生をインターンで受入れている。平成26年度は、「過疎高齢化集落での農業の維持・再

生を目指した集落営農体制の構築」、「里地里山保全活動の支援」等をテーマに学生を3週間～2ヶ月間受入れてきた事例を紹介。今後は、これまでに培ってきたノウハウを活かし、「暮らし」をテーマとした商品として展開、「学びの場」から自然資源に依存した持続的な「営み」の再生を目指したいと説明をして頂いた。



#### 【事例 甕島】甕コーディネーター 齋藤純子氏

齋藤氏は平成21年に甕島にUターンをし、薩摩川内市観光協会甕島案内所勤務後、福岡市内にある旅行会社、ANA セールス等と契約をし、甕島の旅の手配業務、島内ガイド等を行っている。今回は甕島で若手を中心に取組が始まった「KOSHIKI ART PROJECT」の事例や、「ぼっちゃん計画」で取組んできた内容等を紹介して頂いた。現在は、薩摩川内市の観光・シティセールス課、(株)薩摩川内市観光物産協会等と連携をしながら観光商品の開発・販売・実践を行っている組織の在り方等についても言及頂いた。



【事例 奄美群島】一般社団法人奄美群島観光物産協会 統括リーダー 松元英雄氏

奄美群島全域の観光と物産を一元的にまとめ全国に向け情報発信をする組織として設立された「(一社)奄美群島観光物産協会(ぐーんと奄美)」の事業概要や、組織形態について説明して頂いた。平成22年の冬から冬季の閑散期における観光誘致を目的に開催されている「あまみシマ博覧会」は、別府八湯オンパクの手法に習い、地域それぞれにある体験メニューを多数集め年2回開催されている。平成24年の夏は、参加プログラム数159、参加人数1,804名と過去最大を記録したが、平成25年より出展料が必要になった事から、参加プログラム数、参加者共に減少し始めている。その対策として、出展料金の調整や、プログラムの質を高めるコーディネーターの養成、観光客だけでなく一般の島民が参加したくなる仕掛けづくりが必要と発表。

さらに人材育成の面では、群島内に6名いる「島コーディネーター」を島の観光の目利きとして、島の多様な魅力を消費者ニーズに合った商品にしつらえることができる人材として養成していきたいと説明して頂いた。



【パネルディスカッション :テーマ「島の観光を担う人材・組織育成」】

モデレーター

(株)マインドシェア 九州のムラ編集長/養父信夫

登壇者

- ・国土交通省九州運輸局企画観光部長/榎本通也
- ・離島経済新聞 編集長/鯨本あつこ氏
- ・一般社団法人MIT専務理事/川口幹子氏
- ・NPO法人すみようヤムランド理事長/和田美智子氏

第1部・2部の流を受け、登壇者に観光地域づくりを推進する「人材と組織をどう育成していくのか」というテーマをそれぞれの立場から深堀をして議論を行った。

九州運輸局の榎本部長は、観光をビジネス化にするには、地域で観光地域づくりを実践する人と一般社団法人やNPO等の草の根的な取組みをする組織が必要であり、またプロモーション等においては、自治体や観光協会等との組織連携を行うことが重要だと意見を述べた。連携する方法として小値賀島のように1つの組織に統合し観光プラットフォームをつくるケースもあると説明。組織の在り方、組織連携の在り方は島の状況等にも寄るため、奄美ならではの組織の在り方を検討していくべきだと語った。

離島経済新聞社の鯨本編集長は、全国の中でも特に人材育成について注目される島根県隠岐にある海士町の事例を挙げて説明。高校生が「第1回観光甲子園」で提案した「ヒツナギ」という、人と人をつなぐ観光企画は、島外の中高生と島内の中高生が共同で島でホームステイをしながら島内で過ごすプログラム内容で、数年経った今も「ヒツナギ部」という部ができ、高校生が主体となって島の観光に取り組んでいることを紹介した。

地域で観光地域づくりを実践している対馬の川口氏は、事業を継続していくための自主財源をどのように確保していくかが課題だと語り、観光の仕事は種を蒔いてから収益を上げるまで時間が係る為、市の委託業務の請負や、コンサルティング業務で人件費を賄っている現状を説明。

奄美市で観光地域づくりに取り組むNPO法人すみようヤムランド理事長の和田氏は、現在はボランティア業務が主であるため運営資金確保の難しさや、組織強化のための人材育成の大変さを語った。



### 第3部 奄美群島首長サミット 「奄美群島の広域連携による観光魅力発信」

モデレーター

(株)マインドシェア 観光地域づくりプロデューサー/坂元英俊

登壇者

- ・ 鹿児島県大島支庁長/本重人氏
- ・ 日本航空株式会社 執行役員 路線統括本部国内路線事業本部長/西尾忠男氏
- ・ ANAホールディングス株式会社 上席執行役員アジア戦略部長/芝田浩二氏
- ・ 奄美群島各島代表首長(奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島)

第3部では冒頭に、奄美群島各島の代表首長による島の紹介を行った後、日本航空(株)、ANAホールディングス(株)からは其々の航空会社として奄美群島にどのように貢献ができるか、といった提案を頂いた後、各首長と航空2社の代表とで、どのように群島として広域で連携すべきなのか、魅力を発信していくのかの議論を行った。

日本航空(株)からは、奄美群島への貢献として、奄美群島民の足となり、群島内の移動手段を確保すること、奄美大島と東京・大阪・福岡等の首都圏との流動を確保することがポイントだと語り、その上で、世界自然遺産登録を見据え、世界へ奄美ブランドを浸透させていきたいと語った。

また、ANAホールディングス(株)は、認知度の低さはアクセスの不便さにも要因があると鹿児島空港の例を挙げ、鹿児島空港から奄美大島、徳之島、与論、沖永良部への飛行機が運航しており、鹿児島空港から羽田空港までの便との乗り継ぎが良ければ利用者の利便性が高まることを説明し、奄美空港を「奄美ハブ(空港)」にして群島への誘客に繋げてはどうかと提案があった。

また、広域の連携の在り方についてモデレーターより、観光庁で取組んでいる「広域観光圏」の概要を説明し、このような国の事業も絡めて奄美群島全域で観光に取組んではどうかと提示し、登壇者による広域連携の在り方や奄美群島の魅力の発信について議論を進めた。



奄美群島の観光振興に向けた共同宣言 <奄美群島広域事務組合管理者/朝山毅氏>

奄美群島広域事務組合より、奄美群島において地方創生に取り組むにあたり、観光資源を活用し観光/交流を群島のリーディング産業に位置付け、奄美群島12市町村として4つの柱を宣言した。

宣言文は、奄美観光を担う人材・組織の育成、奄美群島の魅力をフル活用した周遊観光の仕組みづくり、奄美群島の観光受入体制の充実、世界自然遺産登録を見据えた国内外への観光誘客で構成された。



## エクスカーショ

シンポジウム翌日の11月14日は、奄美市住用町を巡るエクスカーションが実施された。参加者は半日コース22名、1日コースが8名の参加であった。

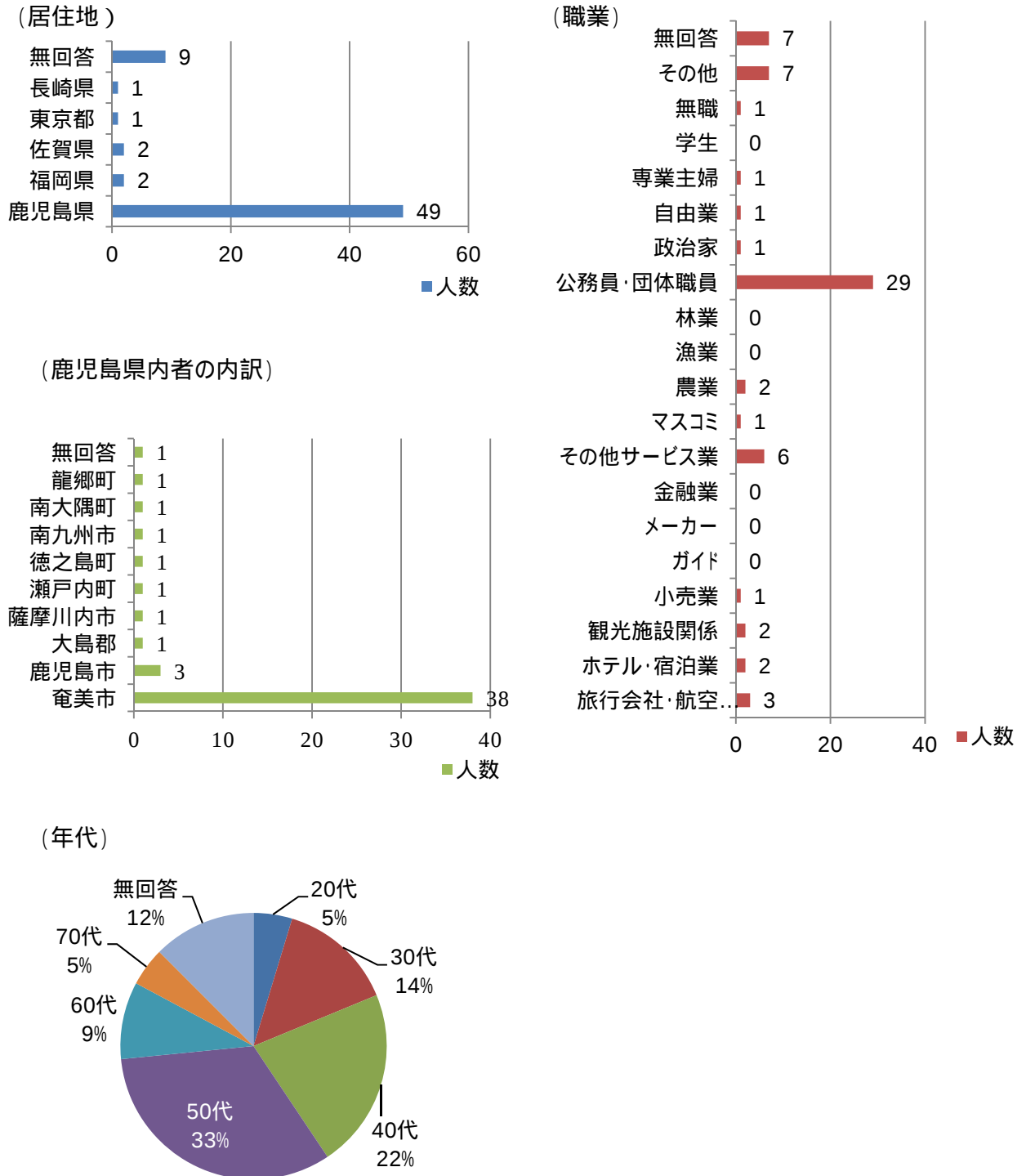
(主催: 奄美市・NPO法人すみようヤムラランド)



### 3. アンケート結果

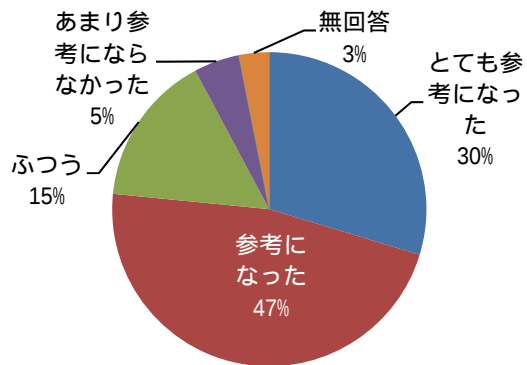
シンポジウム参加者にアンケートを行った結果を下記にまとめる。回収数は64名。

#### 参加者属性について

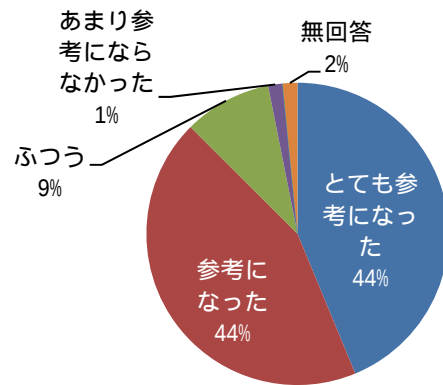


## プログラム内容について

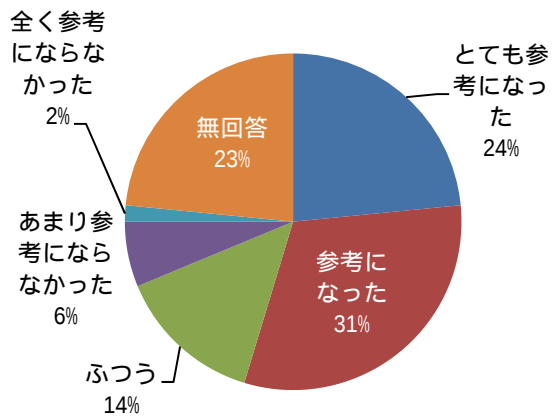
### Q) 第1部 「離島の観光振興策に係る調査」



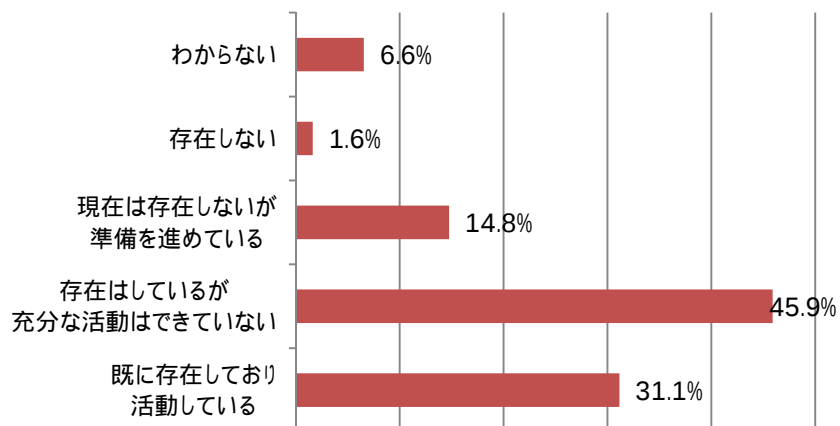
### Q) 第2部 「九州離島観光フォーム」



### Q) 第3部 「奄美群島観光フォーラム」



### Q) 住んでいる地域に、観光地域づくりに活用できる人材・組織があるか？



## Q) 地域(島)が観光地域づくりを推進する上での一番の課題について

|            |                                                                                                                                                      |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人材         | 人材不足・島の人々が外部の方々に対する警戒心が強い。外の方が来たときの受け皿がない。                                                                                                           |
|            | 人材、財源！ この種のシンポジウムは、これまで何度もあり、継続した取り組みができていないのが現状です。地域づくりを中心とした観光地づくりは、奄美の重要なポイントだと思います。                                                              |
| 連携         | 奄美の場合は有人8島あり、観光客をどう分散化させるか(効果を他の島に波及させるか)・もっとインパクトのある施設等を整備するか・各島や各市町村どうしの連携をどう図るか。                                                                  |
|            | 地域活動組織と観光業者との連携。地域グループの育成。                                                                                                                           |
|            | 島民と自治体役場との意識のズレ。連携不足。<br>離れた3島を平等に、同時に、同様に扱おうという姿勢がしばしば足かせとなる。                                                                                       |
| 意識醸成       | 関係者(地域の人々、組織、行政)意識醸成が第一の課題と考えます。次に受入体制(メニュー、宿泊、食事)の強化～課題しかありません。                                                                                     |
|            | 住民の興味、関心。                                                                                                                                            |
| 行政支援インフラ整備 | 個々の皆さんは色々と努力していると思うが、行政のサポートが追いつかないのが課題だと思う。                                                                                                         |
|            | 日本の排他的経済水域が国土面積の12倍あるのも、離島の存在が大きい。離島は輸送コストの負担が大きく、消費税も二重に支払っている状況です。地方創生の感点からも「離島減税」を特区として取り組んでいただきたい。免税売店があるように「免税離島」を目指し、観光振興、地域づくりをすることが課題と思います。  |
|            | これからの群島観光には奄美空港がハブ空港化するのが一番必要と思われるが、現段階では、空港機能変更が無いと聞いています。これでこれから世界自然遺産登録され、受入れができるのでしょうか。空港ターミナルビル及び県、市町村の動きが遅い！！現段階で空港での事故(屋内)で安全が保たれるのか？         |
| その他        | 地元で元々あるものの良さに気づくこと、守ろうとすること。来訪者に対して本当のホスピタリティを持つこと。公共事業予算に頼る気持ちを捨てること。                                                                               |
|            | 何を魅力として商品化するか。気づき＝知ること→人材づくり→地域全体をチームとして活動させられるか実行力と継続力。                                                                                             |
|            | 外国人客受入れ体制の整備、強化。クルーズ船の誘致、世界自然遺産登録等により今後外国人客が多く来島されることが見込まれる。これらに対する受入れ体制の確立が急務となっている中で、今年奄美市において民間による「奄美国際懇談会」の組織を7月に立ち上げました。今後は組織の活動の充実が重要課題となっている。 |
|            | 公共工事の中に観光振興に配慮した設計がない。景観づくりや自然環境に配慮しているとはとても思えない。自然遺産登録という名前だけ先走りしている様に思える。                                                                          |

Q) 観光施策として実施していること。また今後、予定していること。

|       |                                                                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 組織づくり | 観光協会的な、ワンストップ組織を作る準備中。ジオパーク登録に向けた観光受入体制、人材育成中。                                                                                                                |
|       | 歴史回廊のまち笠利観光プロジェクトでまちおこし隊の組織づくり。                                                                                                                               |
|       | 奄美大島観光物産協会の再構築、H27から地域おこし協力隊2名を予算計上していく計画です。本協会とNPO法人等との連携を強化していきたいと思います。                                                                                     |
|       | 一番重要なことは、人的ネットワークと考えます。そのネットワークを早期に構築する手段として、イベント開催を検討している。                                                                                                   |
|       | 一元的相談窓口の確立をめざしている。その組織が相談者のハンドリングができるようになること。                                                                                                                 |
|       | 各組織との情報交換や取組方向を確認するため組織を立上げた(これまでの取組がそれぞればらばらであったため)。                                                                                                         |
| 人材育成  | 世界自然遺産という形で今、島が進んでいるのは良い事だと思いますが、登録されて数年は観光客が来るといいます。その後の為にも、現在取り組んでいるのは奄美へもう一度来てもらうように、又奄美ファンになってもらうように、接客対応をしています。当施設の事だけでなく、スタッフが奄美ガイドとしての認識をもたせるようにしています。 |
|       | ガイドの育成に力点をあいている。                                                                                                                                              |
| 商品開発  | 1. 地域の食材を使った商品の開発 2. 販路の開拓                                                                                                                                    |
|       | 現在行っている体験メニュー“シュノーケリング”のリピーター育成。流出人口にストップをかける為の取組みの実行(医療と介護を連携し、住み続けることができる島にする事)。地域の作物を生産する取組みの1つとして福祉農園の検討。                                                 |
|       | 「やさしい島プロジェクト」として、かごしまバリアフリー相談センターと連携し、ユニバーサル・ツーリズムの受入れに耐え得る島づくりを進めています。また、島の物産をリ・プロデュースし、物産展を計画しています。                                                         |
|       | 森を利用したバードリスニング、トレッキング、休憩所を設置したコースをつくる。島の風習、島唄踊りを受入もてなしに生かしていくことがもっと充実していくことが大事だと思う。                                                                           |
| 情報発信  | 現在、奄美大島の情報をインターネットを通じて「奄美まるごと情報局」というサイトを運営しています。サイトを今まで以上に充実させ、少しでも多くの方に奄美の魅力を伝えたい。                                                                           |
|       | まず情報発信で奄美群島を知らせる事。自然遺産登録に向けての準備をしている。各島々の連帯感を作る。                                                                                                              |
| その他   | 2014年11月に開催される国民文化祭を2003年に行われた国民文化デザイン会議同等以上の成果をあげることができれば最高である。                                                                                              |
|       | 世界自然登録の推進。                                                                                                                                                    |
|       | 集落行事への参加 関係団体への参加。                                                                                                                                            |

## Q)その他、感想

|                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| パネルディスカッションでもあったが、民間で観光振興に取り組むにはどうしても運営資金が課題となる。これからの企画事業だけでなく、今行っている事業等についても地域における有用性等を判断して支援してもらえるような制度があればありがたい。                   |
| 実際にその地域が取り組んでいる事例の経過を示すものが欲しかった(展示)                                                                                                   |
| 継続し地道にやること。イベントで終わらないようにすることが大事であると思う。観光 行政 イベントということに重きを置かない。                                                                        |
| 対馬の川口さん、甕島の斉藤さんの事例発表が非常に“顔”がみえておもしろかったですし、これまでのご苦勞とこれからの展望を慮り、応援したくなりました。拝聴する中で、多くのアイデアを得ることができました。感謝です。                              |
| これからボランティアで通訳をしたいと考えているのでその為に参加したが、現在の観光事業の取り組み方等を聞けて、より深く観光の面でサポートしたいと思った。                                                           |
| 地域づくりには、種まきから収穫、そして利益を生むまで長い取り組みが必要であるということに改めて気付いた気がしました。                                                                            |
| 予想以上の人数でおどろきました。当地(奄美大島)には大きく2つの観光協会があるが、世界自然遺産登録を目指す(実現する)のであれば、1つの組織にまとめ“人(人材)”“お金(12市町村からのお金)”を集中させた方が望ましく感じた。                     |
| パネルディスカッションの「観光担う人材」で、実際にどのように発展させていくのか、掘り下げる時間があったらと思った。観光の視点で見ると、奄美へ来るのは大都市圏の関東、関西であり鹿児島ではないことだと感じた(交通費が関東、関西よりはるかに高い)。             |
| 地域ならではの魅力を活かすために、住民、NPO法人、観光協会、行政等がうまくサポートしあいながら、経済活動に繋がれば地域活性化にとても大きな役割を果たすと思いました。                                                   |
| 過疎と向き合い、地域おこしを深く考える点で見習うべきと考えました。全ては人であり、意識の醸成や個々を取りまとめるファシリテータ、メニューと行政、客を繋ぐコーディネーター等の必要性を感じました。                                      |
| 三島村のような小さな複数の島では、参考になることも多かったですが、なかなかマネできないことの方が多かった。単独の離島、メインの島以外の島や、地域全体のこともわかる、視野を広げた取り組み事例を知りたいと思う。                               |
| 盛り沢山すぎて、焦点がボケてしまっているのでは。第2部が軸なのでこれを厚くすべきなのに、第3部の不思議な紹介コーナーが多かったために、尻切れになってしまった。国としての支援体制、仕組みの説明をし、地域がやる気になる仕掛けづくりこそ今日は必要ではなかったかと思います。 |
| すでに活発に活動しているエリアも…それぞれ課題はある。…と思った。様々なエリアの事例も参考にして活動を続ける意欲をもらえて良かった。P.S 時間的に長過ぎるのは…問題です。                                                |

## 第6章 平成27年度以降の取組みについて

### 1. 事業のまとめ

本調査事業で実施した「九州圏内の離島における観光施策の事例の収集」、「奄美への交通アクセスの現状調査」、「収集した観振興策の発表」等の事業を踏まえ、第3章で「奄美群島における観光振興策」の方策として、“奄美群島の連携した観光振興策への取組み”を提示した。

その振興策イメージは、下図に示したように、奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島を連携させた広域観光ネットワークの確立させることである。

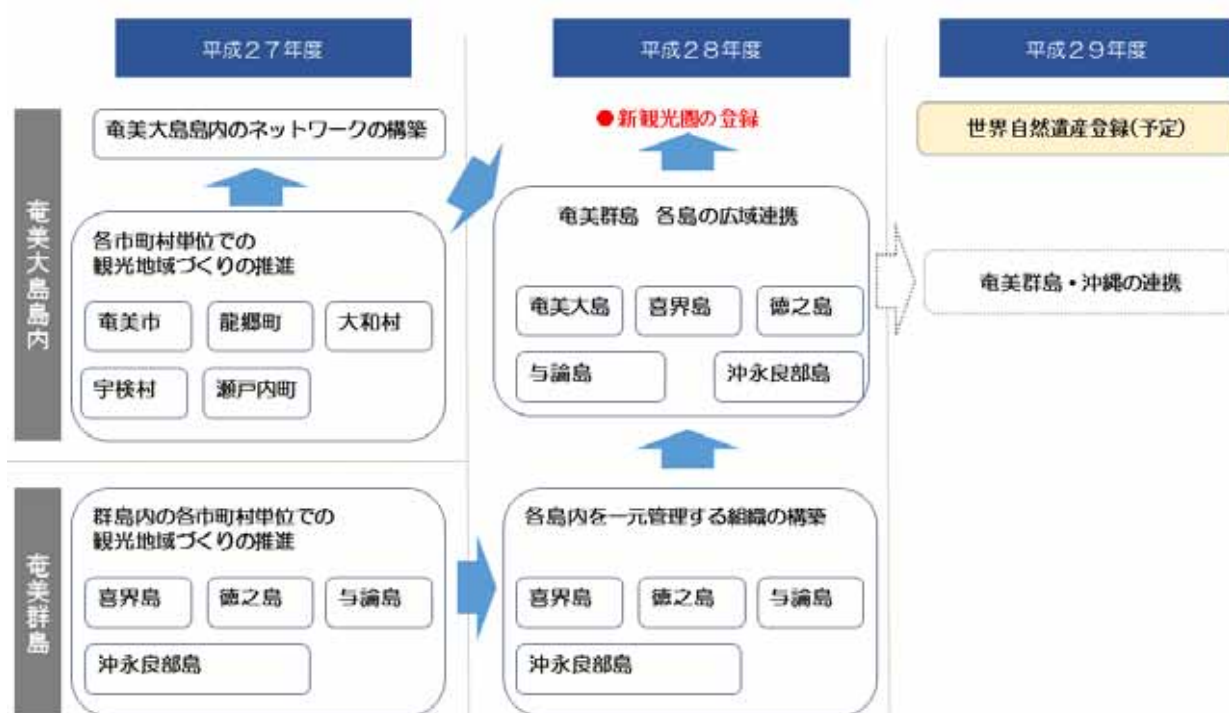


観光庁が推進している「観光圏」の取組みにおいても、3～5年をかけて滞在交流型観光の人材育成や景観整備、観光圏域をコントロールするプラットフォームの設置、2泊3日以上滞在プログラムの造成等の準備を行い、独自のブランド地域を確立。その後、日本の顔としての特徴ある魅力を持つ観光圏としてのブランド観光地域と指定され、名実ともに国の代表的な観光圏になることができるとされている。

現在、観光圏として認定されている地域は10地域あるが、複数の離島を連携させた事例はないため、奄美群島も上図のような連携ができれば登録の可能性が十分にある。

奄美群島全域での広域観光ネットワークを構築するためには、群島内の集落レベルでの観光地域づくりを推進する人材・組織づくり、島単位での一元管理する組織(サテライト)づくり、群島間を一元管理する組織(観光プラットフォーム)づくりが必要であるが、まずは奄美大島島内で、それらの取り組みを行うことで奄美大島の連携ネットワークを構築し、その後、群島へと展開するステップが望ましい。

## 2. ロードマップ



今後の方策として、ステップ 奄美大島島内の連携、ステップ 群島間の連携、ステップ 奄美群島と沖縄(もしくは屋久島)との連携が考えられる。

ステップ のターゲットイヤーを世界自然遺産への登録を目指している平成29年度に設定したとすると、来年度の平成27年度中には、奄美大島島内の連携モデルを構築すると併せ、群島各島内での連携も検討し始めなければならない。その後、ステップ の手法を各群島へと展開をし、さらに群島間の連携を深めていくことで、「奄美群島広域観光ネットワーク」を確立させるのが理想であると言える。

平成26年度 国土交通省九州運輸局  
—離島における観光振興策に関わる調査業務—  
報告書